資料１

猪名川における進捗点検結果説明資料

猪名川の治水整備等＜事業に関連する指標＞

猪名川では、治水・環境・維持の事業を展開。主要な事業は河道掘削であり、治水・環境・利用等の観点で相互に連携し事業を展開している。
進捗点検における点検項目間の関連は以下の通り。

分類	点検項目	観点	指標
人と川とのつながり	日常からの人と川とのつながりの構築	住民・住民団体(NPO等)との連携	住民・住民団体（NPO等）との連携内容
		河川レンジャーの充実	河川レンジャー在籍人数（治水・環境・防災などの拡大）と、住民・住民団体（NPO等）との交流内容
		住民に関心をもってもらうための取り組み	住民、住民団体との交流内容
	洪水・災害時の人と川とのつながりの構築	関係機関との連携	協議会等との連携内容
環境	多様な生態系を有する淀川水系の再生と次世代への継承	生態系・生物群集多様性の維持・回復に向けた取組	関係機関が連携した取組内容
		外来種対策の実施	外来種の現状把握と対策内容
	河川の連続性の確保	河岸−陸域の連続性の確保	干潟・ヨシ原の保全・再生内容・面積
		内湾−汽水域−河川、琵琶湖−内湖・流入河川の連続性の確保	既設の堰・落差工の改良内容
	川本来のダイナミズムの再生	流況の平滑化に対する河川環境の改善	既設ダムにおける弾力的運用等の検討内容・魚類確認数
		河川環境上必要な流量を確保するための流況・位況（流量・水位の変動様式）の改善	流水の正常な機能を維持するため必要な流量の確保内容・正常流量確保日数
	流域の視点に立った水循環・物質循環系の構築	流域の土砂生産・移動・堆積の実態把握	河床変動等の土砂動態のモニタリング、総合土砂管理方策の検討内容（既存ダム、ダム下流）
	流域管理に向けた継続的な施策展開	生物の生息・生育・繁殖環境に配慮した工事の施工	生物の生息・生育・繁殖環境に配慮した工事の施工の実施内容・箇所
		河川管理者以外の者が管理する施設に対する働きかけ	河川管理者以外の者が管理する施設に対する働きかけの実施内容
治水・防災	危機管理体制の構築	破堤氾濫に備えた被害の軽減対策，避難体制の確立	ハザードマップの作成内容・フォローアップ
			水害に強い地域づくりに向けた取組内容
	堤防強化の実施	堤防の強化対策の実施	堤防天端舗装実施内容・延長
	川の中で洪水を安全に流下させるための対策	上下流バランスの確保	上下流バランスにおける調整内容
		河道流下能力の増大、洪水調節の効果的な実施による洪水位の低減	整備による効果
利水	浸水への備えの強化	渇水調整の円滑化への取り組み	渇水対策会議の機能拡大、会議構成員拡大及び常設化（利水者会議）の実現に向けた内容
利用	川らしい利用の促進	陸域・水陸移行帯の秩序ある淀川利用に向けての誘導または規制の取組（川らしい河川敷利用）	河川保全利用に関する取組内容
維持管理	維持管理	河川区域等の管理	河道内樹木の伐採の実施状況

【治水】川の中で洪水を安全に流下させるための対策状況

＜猪名川における整備計画＞
・令和3年8月に変更された整備計画に基づき、昭和35年台風16号洪水の降雨量を1.1倍とした洪水を安全に流下させるため、上下流バランス（銀橋・神崎川）を確保するとともに、下流神崎川の治水安全度を現況よりも低下させない範囲で、猪名川下流域より更なる河道掘削等を順次実施。
・猪名川下流域は水深が深く、橋梁等の横断構造物が多いなど、施工条件や施工方法が制限されるため、進捗率は5%程度に留まる状況。

＜令和3～7年の取組状況＞
・上下流バランスを考慮しつつ、河道掘削、堤防拡築等を実施。
・砂州の切り下げを中心とした水陸移行帯・河原環境の再生工事を行った箇所のモニタリング、河川縦断方向の連続性回復のための魚道のモニタリング調査を実施。
・猪名川河川事務所管内における公園やグラウンドの望ましい利用のあり方について意見を聴くため、毎年度、猪名川・藻川河川保全利用委員会を2回開催。

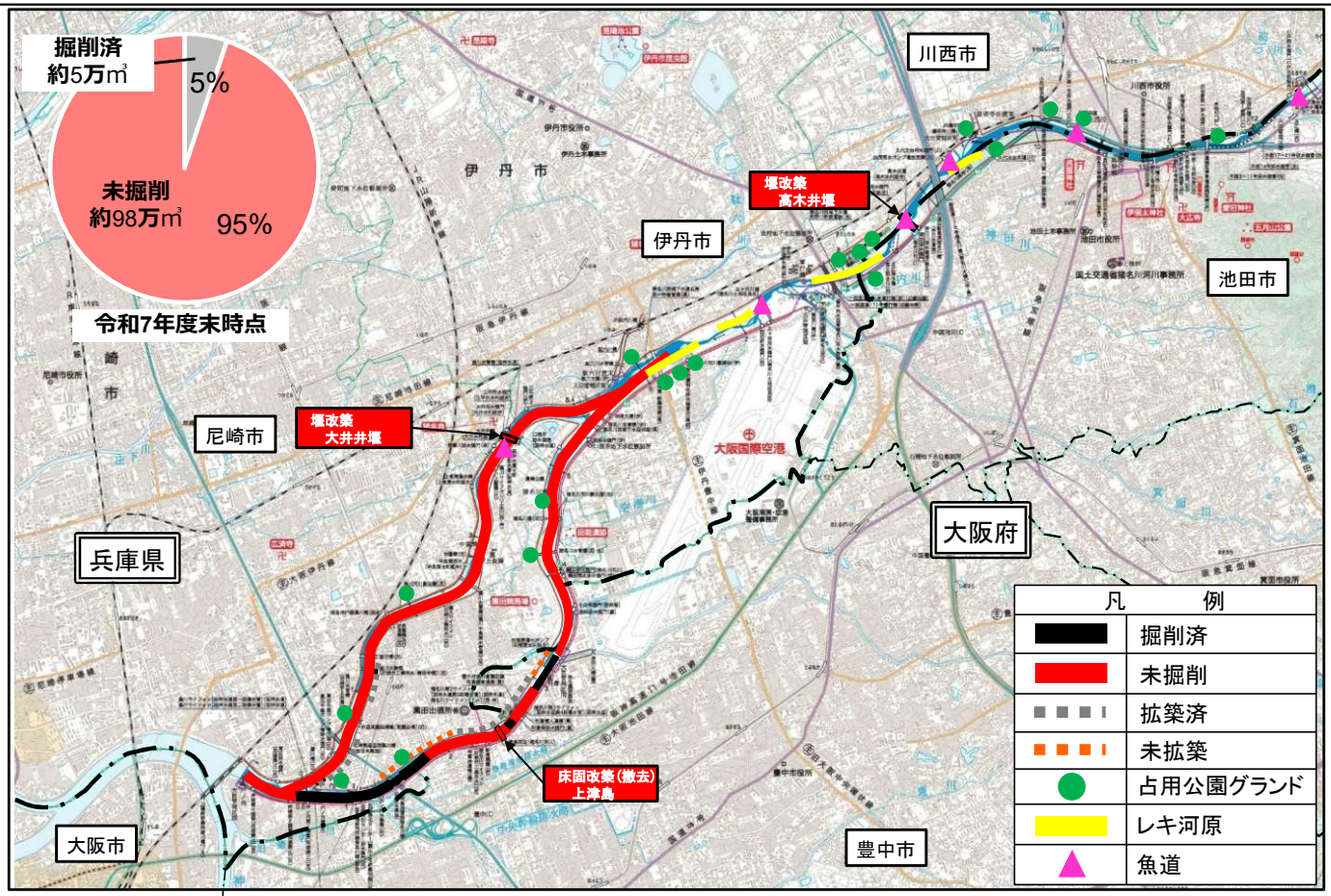
【河川概要】猪名川
■流域面積　383km²
　山地：287km²　平地：96km²
■管理延長　河川：幹川　猪名川　14.1km
　派川　藻　川　4.8km
　ダム：支川　18.06km
■都道府県名　兵庫県　大阪府
■基本方針策定　H19.8
■整備計画策定　H21.3
　変更　R 3.8

＜主な事業【令和7年度末時点の進捗】＞

○治水
・河道掘削　約103万m³【約5万m³済】
・堤防拡築　3.8km【2.3km済】
・堰改築等　堰改築2箇所【検討中】
　床固撤去1箇所【検討中】

○環境
レキ河原（4箇所）【全箇所済】
魚道（6箇所）　【全箇所済】

○利用
占用公園・グランド（19箇所）
【全箇所とも河川保全利用委員会にて審議済（P.21参照）】

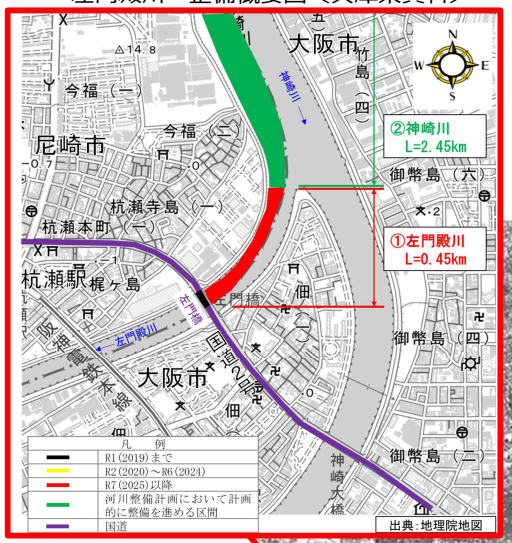


【治水】上下流バランスの確保について

＜令和3～7年の取組状況＞
・猪名川・神崎川では、区間ごとに河川管理者が異なる。
・国、大阪府、兵庫県及び水資源機構の4者が、定期的に協議・調整しながら段階的に河川整備を推進。
・猪名川上流（兵庫県管理）：上下流バランスに配慮しながら、銀橋地点1400m3/sに向けた改修等を実施中。
・猪名川（直轄管理）：神崎川の安全度を低下させない範囲において河道掘削等を実施中。
・神崎川・左門殿川（大阪府・兵庫県管理）：兵庫県が神崎橋地点3,400m3/sに向けた河道掘削を実施中。

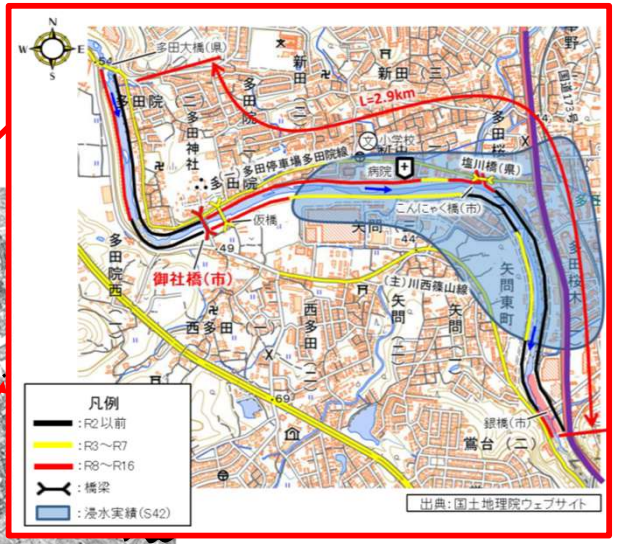
＜治水・防災＞
上下流バランスの確保
⇒4. 3. 2.　淀川水系における治水・防災対策

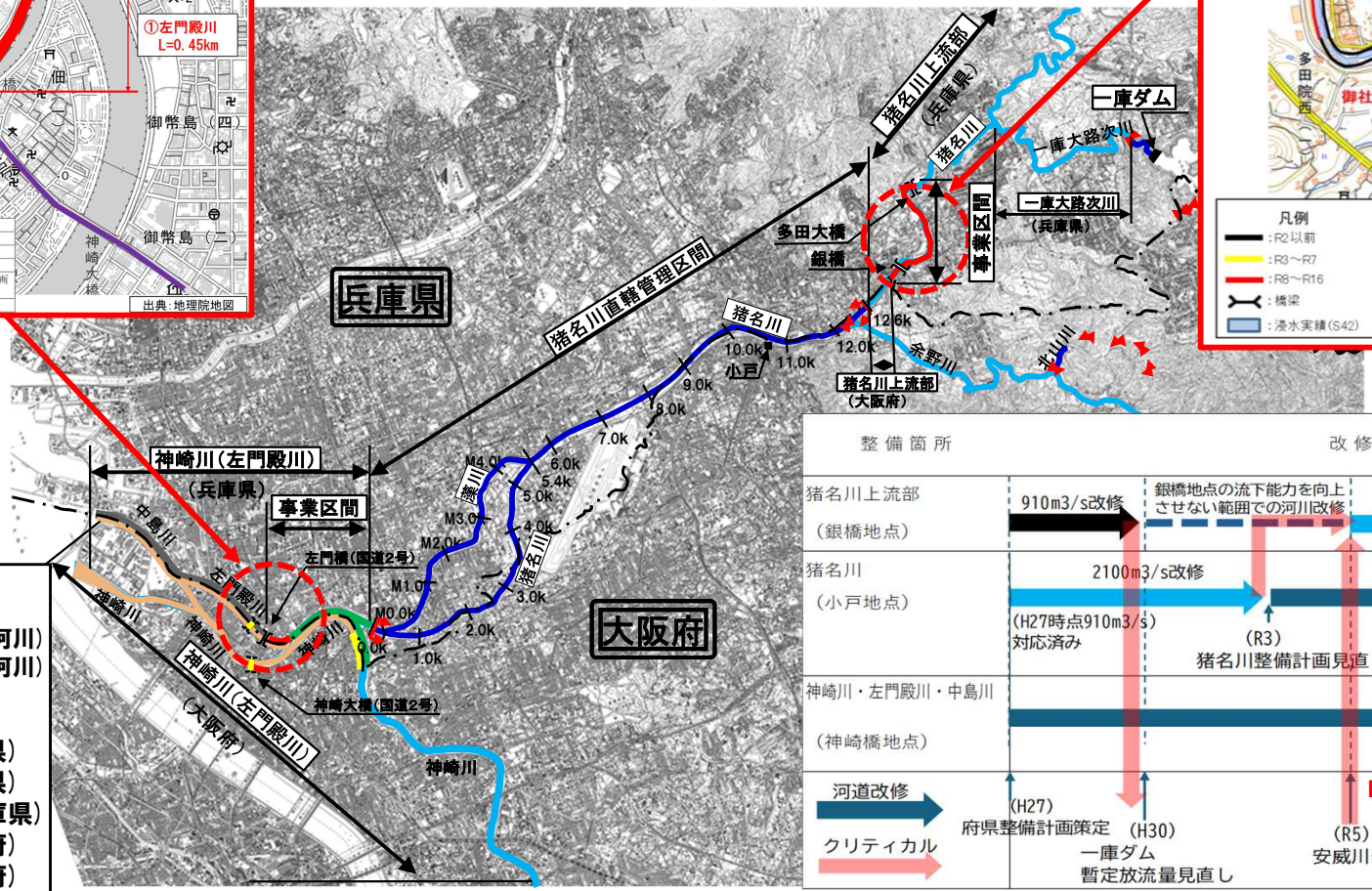
左門殿川　整備概要図〔兵庫県資料〕



●猪名川上流〔兵庫県〕
　整備内容：護岸・築堤、河床掘削、橋梁架替
●神崎川・左門殿川　〔大阪府・兵庫県〕
　整備内容：河床掘削　（残掘削量約23万m3）

猪名川　銀橋下流～多田大橋　整備概要図〔兵庫県資料〕



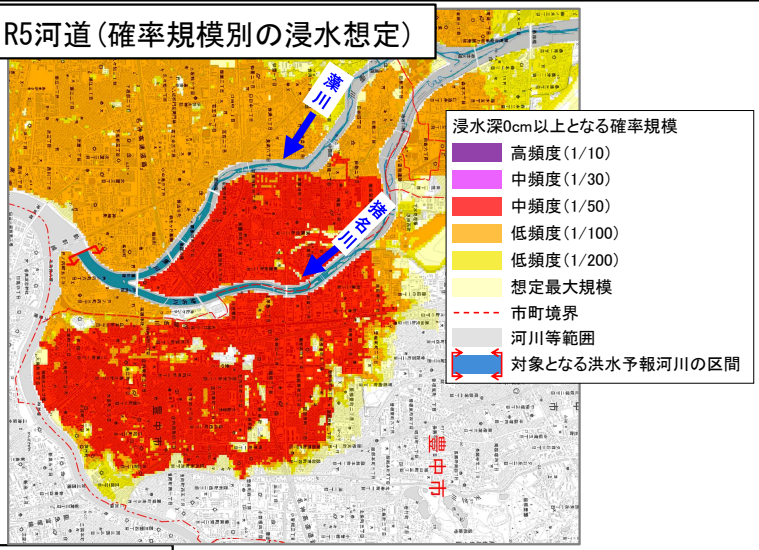


【治水】河道流下能力の増大による洪水位の低減

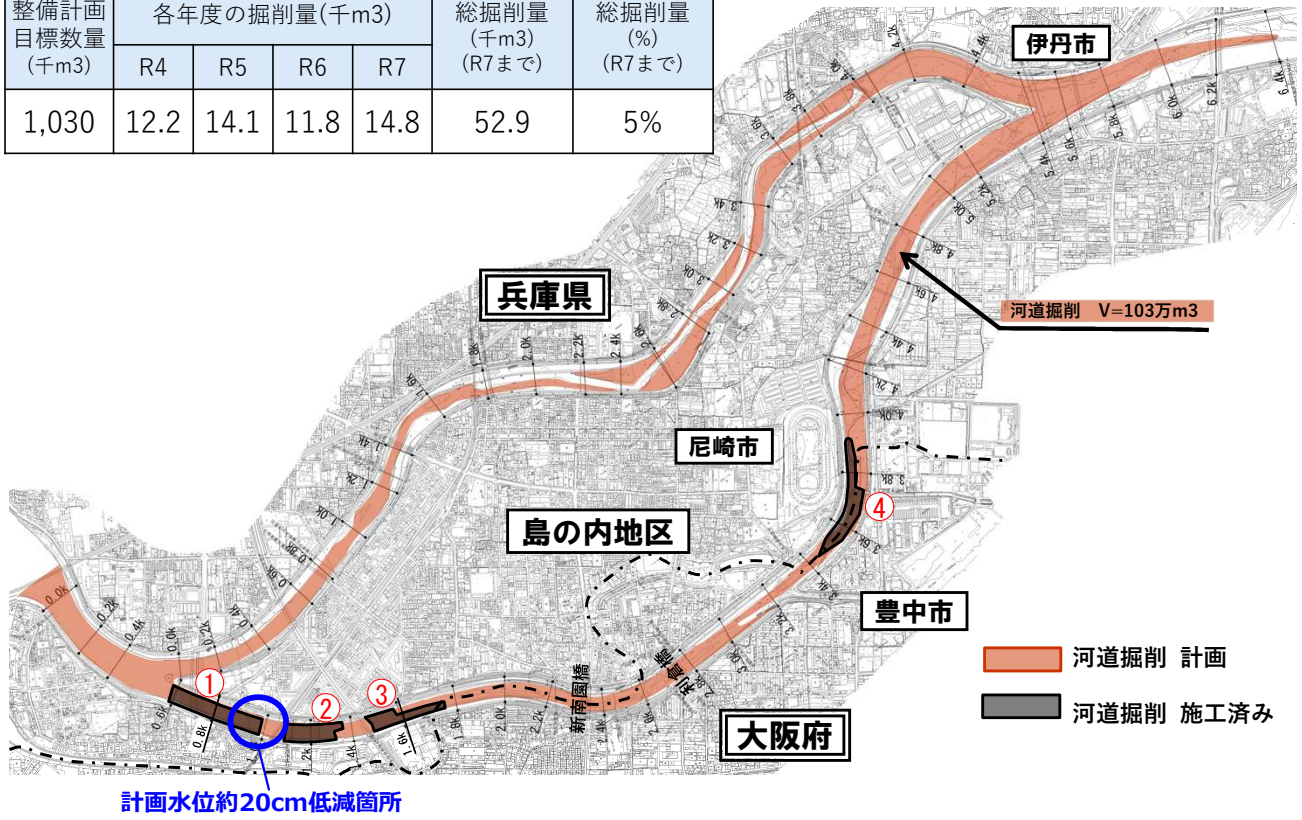
＜整備による効果＞
・令和7年度末時点で下流部の一部で最大約20cm程度の水位低減効果が発現。
・引き続き、河道掘削を実施して猪名川流域全体の治水安全度を向上させる。

＜治水・防災＞
河道流下能力の増大、洪水調節の効果的な実施による洪水位の低減
⇒4.3.2. 淀川水系における治水・防災対策

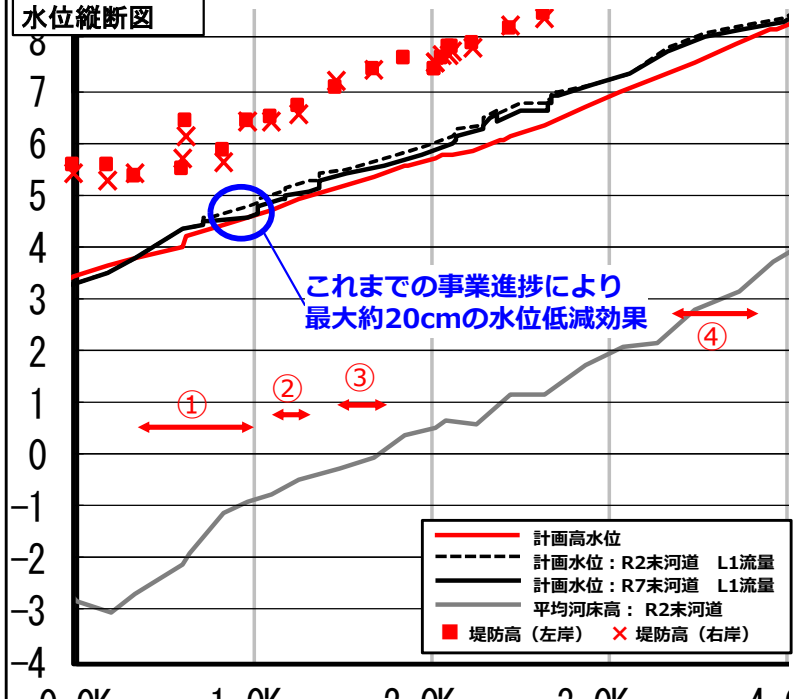
R5河道（確率規模別の浸水想定）

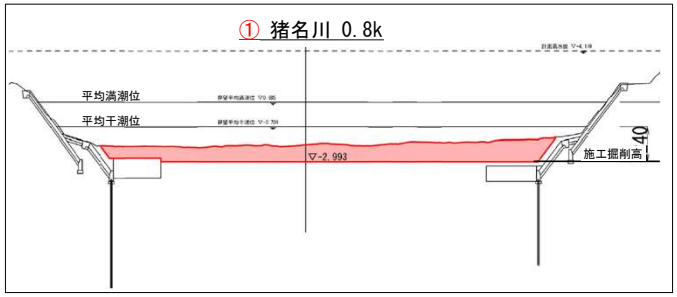


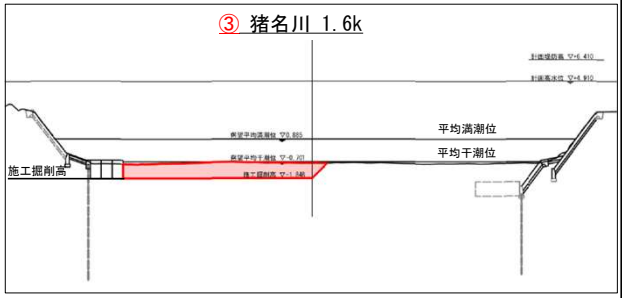
整備計画目標数量（千m3）	各年度の掘削量(千m3)				総掘削量（千m3）（R7まで）	総掘削量（%）（R7まで）
	R4	R5	R6	R7		
1,030	12.2	14.1	11.8	14.8	52.9	5%



水位縦断図







【治水】河川環境に留意した河道掘削の実施

＜猪名川における整備計画＞
・猪名川・藻川0.6～5.4kmの河道掘削にあたっては、併せて湿地環境の保全・再生に留意した掘削形状とする。
・潮汐の影響を踏まえ、猪名川2.8kより上流においては、河道断面の工夫により新たな干潟・浅場環境を創出する。
・感潮区間の干潟・浅場環境は、この連続性を支える重要な環境であり、ヨシ群落の成立とともに、ウキゴリ類、マハゼ、ヒナハゼ、ゴクラクハゼ、チチブ、アユの仔稚魚等の魚類や、テナガエビ、クロベンケイガニ等の底生動物の生息場となることが期待される。

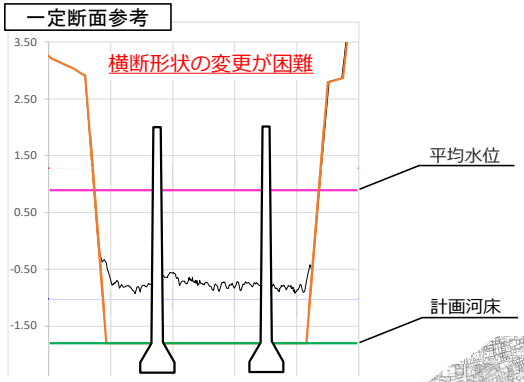


上流側（約2.8k～4.2k）



下流側（約0.6k～2.8k）

一定断面参考

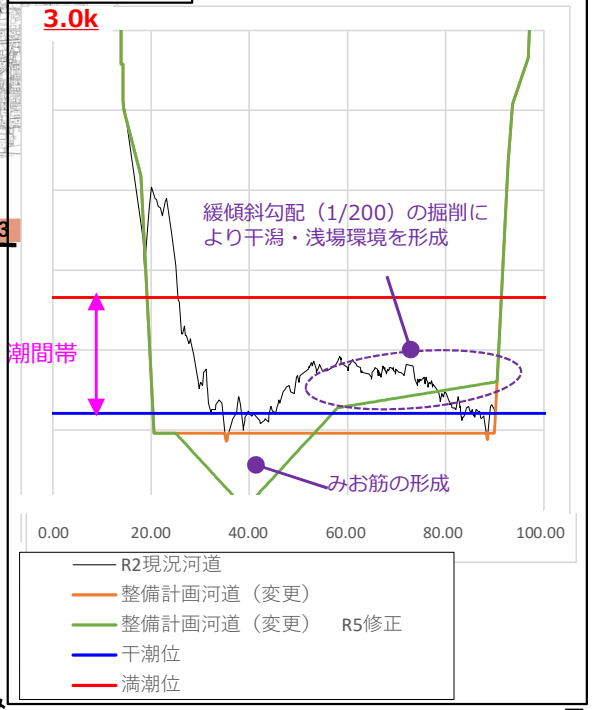


1.6k：横断工作物に挟まれた区間

下流側約3kmの間に横断工作物が多く築造されている。
河床高・河床形状は上下流の工作物への影響等を勘案して設定されているため、一定断面で設定。

＜河川環境＞
生物の生息・生育・繁殖環境に配慮した工事の施工
⇒4.2.6. 流域管理に向けた継続的な施策展開
河岸−陸域の連続性の確保
⇒4.2.3. 河川の連続性の確保

環境配慮事項



【治水】堤防強化　島の内プロジェクトの実施状況

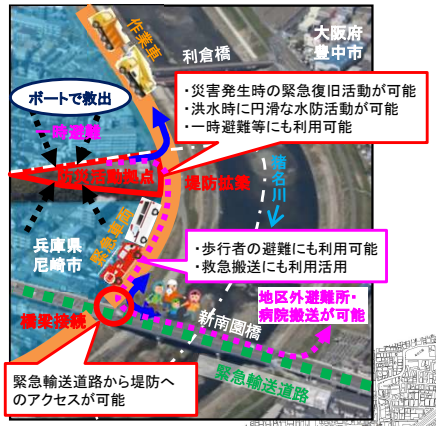
＜治水・防災＞
堤防の強化対策の実施
⇒4. 3. 2.　淀川水系における治水・防災対策

＜猪名川における整備計画＞
・猪名川と藻川に囲まれた、貯留型の氾濫が想定される島の内地区において、堤防拡幅対策・防災拠点の整備（R2完成）を実施する。
・想定最大規模の雨が降った時に、島の内地区内が避難所も含め広範囲に浸水するため、地区外へ円滑に避難できるよう堤防拡築を実施。
＜令和3～7年の取組状況＞
・島の内地区の浸水対策「排水ポンプ車の計画台数（50台）」に対して、堤防拡築の進捗により現状40台並べることが可能【進捗率：80%】。
・想定最大規模の降雨に対し、現時点で最大40台の排水ポンプ車を並べれることにより床上浸水解消に係る日数が7.5日以上から4.8日に、緊急輸送道路の利用ができるまで（浸水深0.2m以下）に係る日数が7.5日以上から4.5日に、それぞれ3日程度短縮できると試算。

●before（防災拠点整備前）



●after（防災拠点整備後）



【治水】堤防強化　島の内プロジェクトの実施状況

＜治水・防災＞
堤防の強化対策の実施
⇒4. 3. 2.　淀川水系における治水・防災対策

＜令和3～7年の取組状況＞
・堤防拡築により緊急輸送道路として活用するにあたり、橋梁から直接堤防及び防災拠点へのアクセスが可能となる接続路を整備。
・水防拠点には、根固めブロックなどの非常用資材を備蓄。

進捗率60%
（2.3km／3.8km）
（令和7年度末時点）

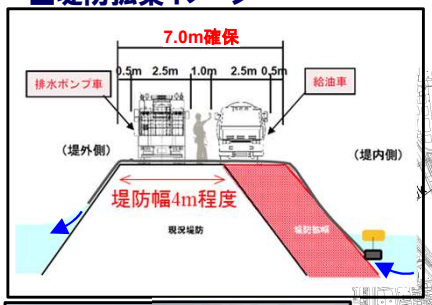
橋梁接続済
2/2箇所（藻川橋・新南園橋）





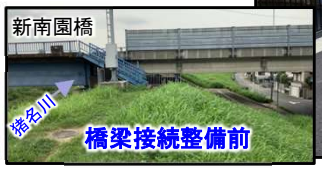


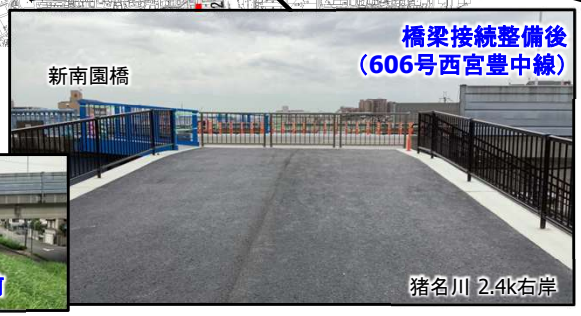
■堤防拡築イメージ













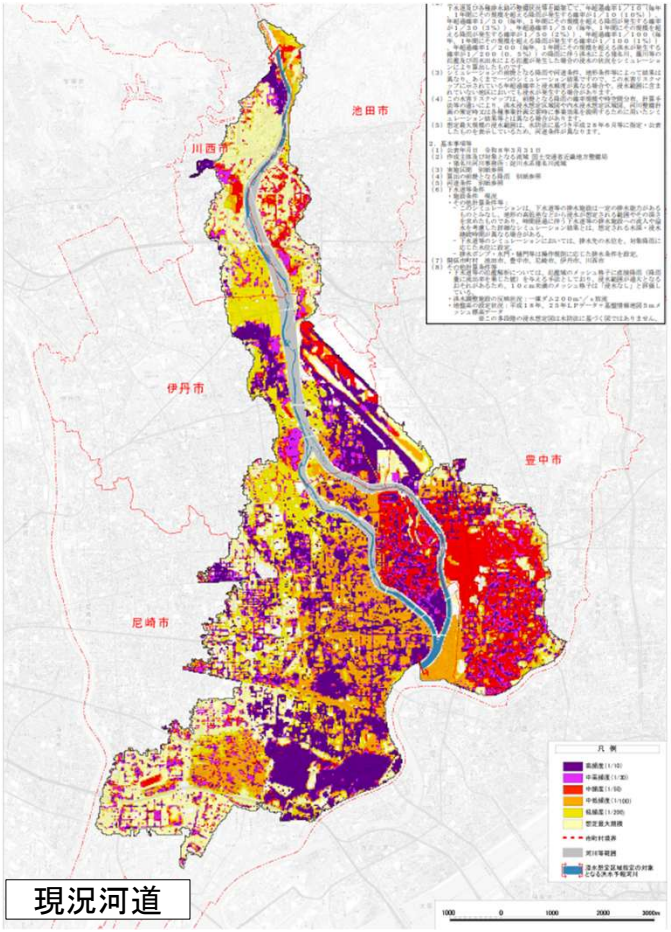


【治水】危機管理体制の構築（流域治水対策）の取組

＜治水・防災＞
破堤氾濫に備えた被害の軽減対策，避難体制の確立
⇒4.3.2. 淀川水系における治水・防災対策
＜人と川とのつながり＞
関係機関との連携
⇒4.1.3. 洪水・災害時の人と川とのつながりの構築

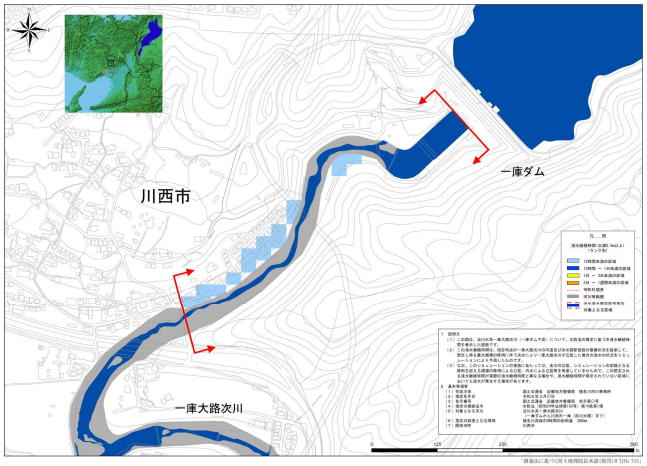
＜猪名川における整備計画＞
・猪名川における流域治水対策は、引き続き流域治水協議会などの枠組みの活用により実施することとし、流域からの流出抑制等を図ることとする。
・猪名川の内外水統合型の「水害リスクマップ」を作成・公表（R8.3.31）し、頻度別の沿川のリスクを公表。
また、これまで水害リスク情報が空白となっていた淀川水系一庫大路次川においても「洪水浸水想定区域等」を指定・公表（R8.3.27）
・これらのリスクに対し、尼崎市など沿川自治体と共同で、「マイ・タイムライン作成講座」を開催し、ハザードマップを活用した住民一人一人の避難計画の作成を支援。

水害リスクマップ（内外水統合型）

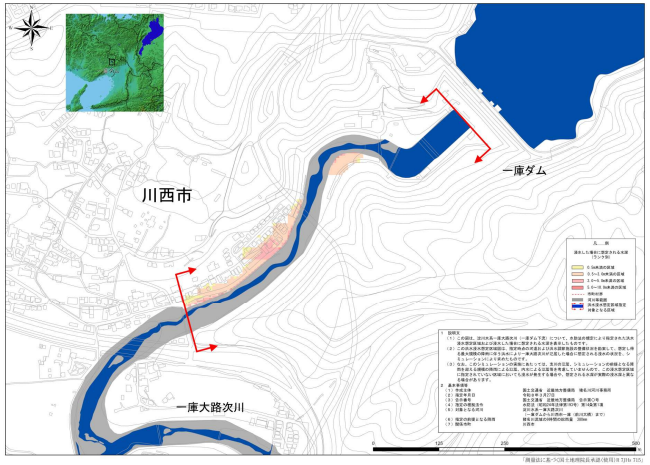


水害リスク情報の空白域を解消

淀川水系一庫大路次川（一庫ダム下流） 洪水浸水想定区域図（浸水継続時間）



淀川水系一庫大路次川（一庫ダム下流） 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）



マイ・タイムライン作成講座

◆日時：令和8年2月7日（土）14:00～16:00
◆場所：園田東生涯学習プラザ（兵庫県尼崎市）
◆参加者：30名


マイ・タイムライン作成の様子

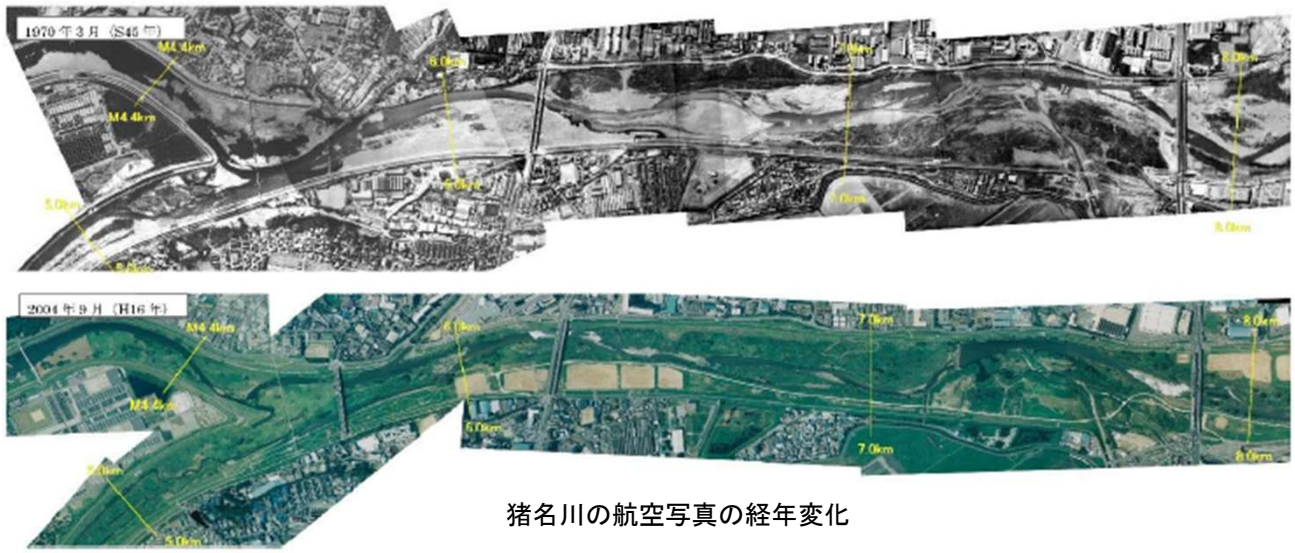

市長にもサポートいただきました


作成したマイ・タイムラインの発表

＜参加者からの感想＞
・避難に向けた具体的な行動が可視化できて、小さなお子さんや高齢者にも大変わかりやすい。
・準備するものや行動をあらかじめきめておくことで、落ち着いて行動できる。

【環境】河岸-陸域の連続性の確保の取組状況

＜猪名川における整備計画＞
・かつて猪名川（昭和40年頃）に存在した“多様な生物がすむ身近な”河川環境を回復するため、自然の営力により河原環境の維持を図っていくことを目的に、水陸移行帯・河原環境の再生のための砂州の切下げを中心とした自然再生事業（河原環境の再生）に着手。
・猪名川の自然再生事業は、平成17年度に着手し、猪名川自然環境委員会の委員の方の指導や助言を受けながら工事を進めるとともにモニタリングを実施しており、北河原試験地（H19年度）を対象とした試験施工をはじめ、北伊丹地区（H21・H28・H29年度）、桑津橋地区（H30年度）、猪名川大橋地区（R1・R2年度）の3箇所を対象に実施し、令和2年度に事業が完了。



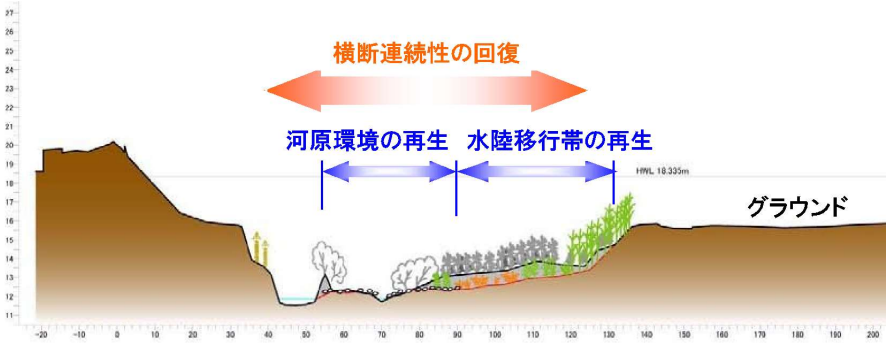
猪名川の航空写真の経年変化

＜河川環境＞
河岸-陸域の連続性の確保
⇒4.2.3. 河川の連続性の確保


河原環境のイメージ（昭和60年8.4k付近）



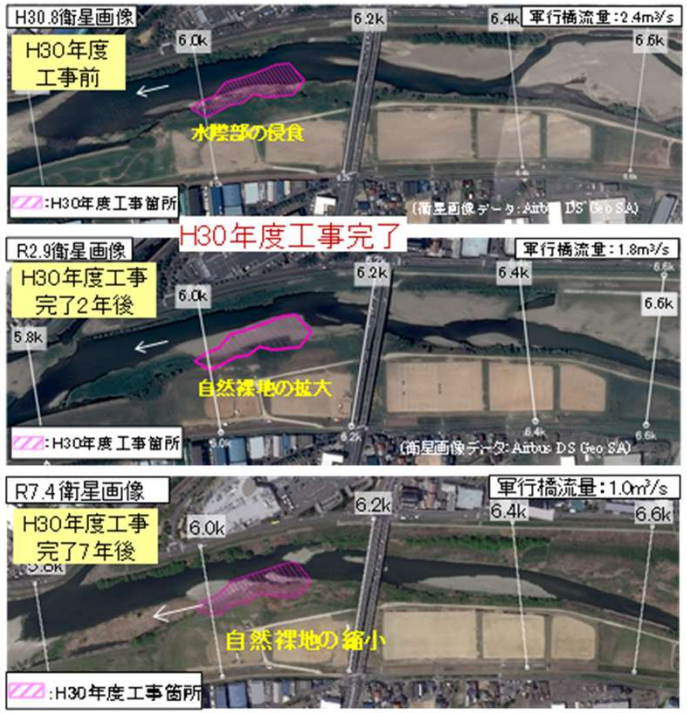
猪名川直轄管理区間の自然再生箇所



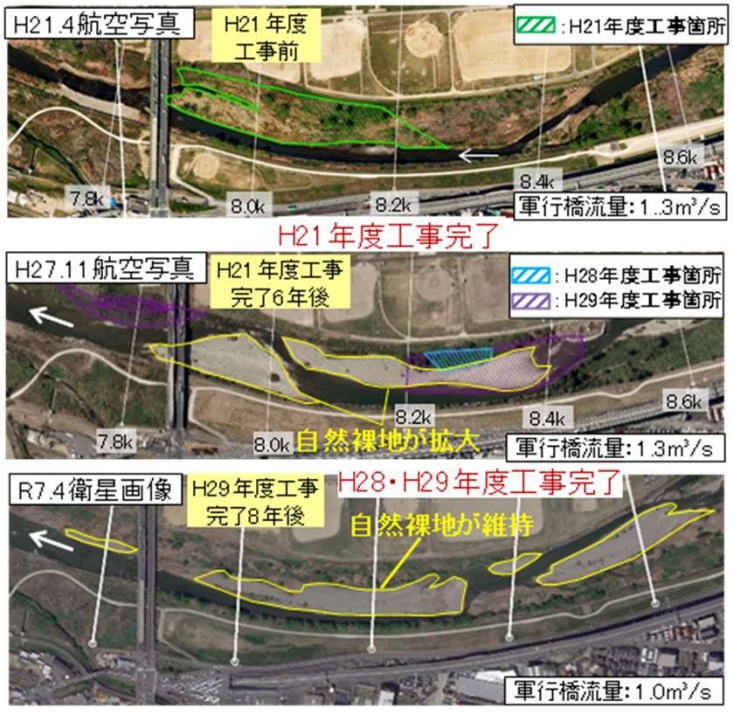
「水陸移行帯・河原環境の再生」整備イメージ

【環境】河岸－陸域の連続性の確保の取組状況

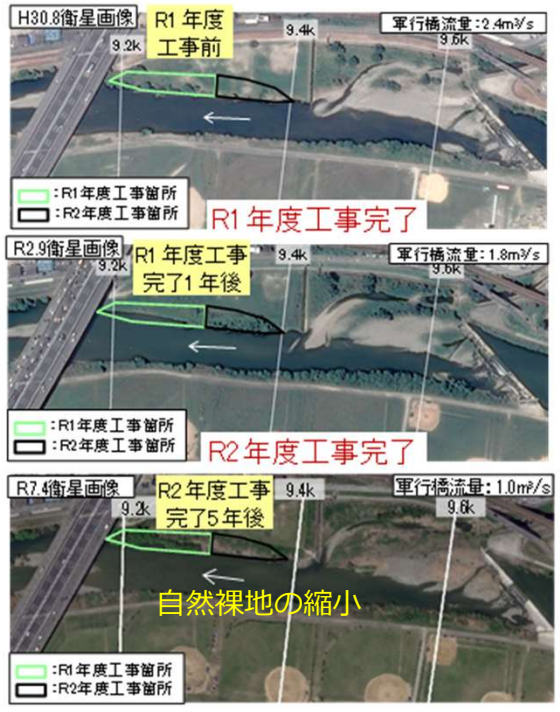
＜整備による効果＞
・河原・水陸移行帯の再生箇所について、物理環境（自然裸地（河原）等）と生物環境（河原に生息する植物等）の観点で評価を行った。
・物理環境については、航空写真等を含む定点写真より、北伊丹地区ではH21の工事後からR7時点でも水陸移行帯の面積を維持できているものの、桑津橋地区と猪名川大橋地区ではH30の工事直後に規模の大きい洪水による攪乱があり、R7時点で水陸移行帯の面積が縮小。
・生物環境については、平成16年頃に草本・樹木が最も多く繁茂し、近年は回復しつつある。



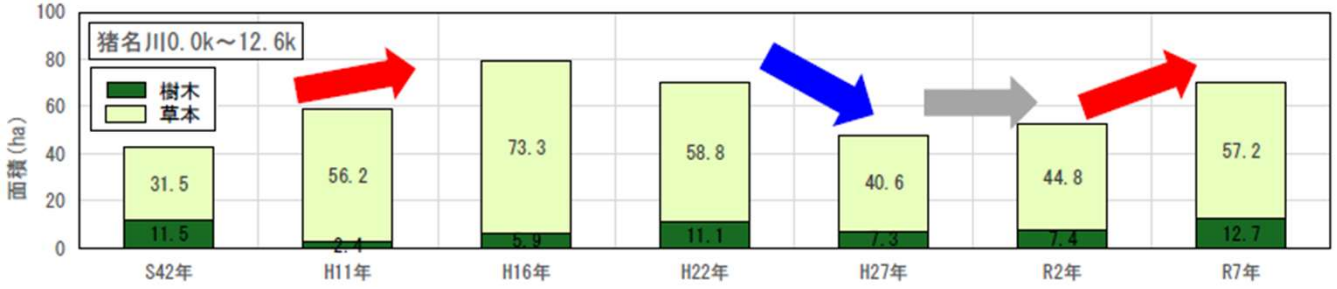
桑津橋地区周辺の航空写真の経年変化



北伊丹地区周辺の航空写真の経年変化



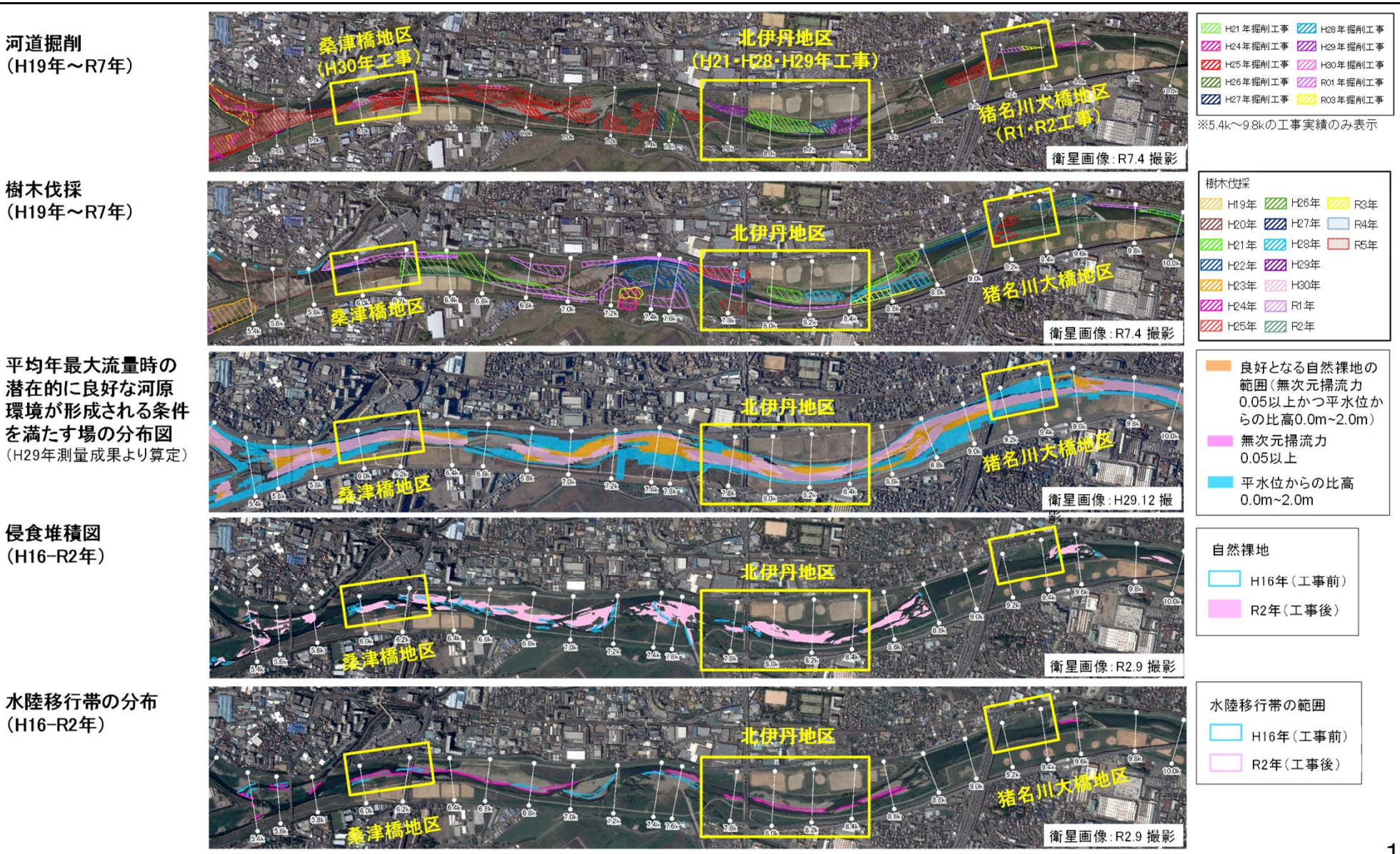
猪名川大橋地区周辺の航空写真の経年変化



河道内における草本・樹木の面積

【環境】河川環境に留意した河道掘削と自然再生

＜河道掘削と自然再生の関係＞
・河原環境が比較的維持されている桑津橋地区と北伊丹地区では、再生箇所及びその上流の洪水時の撹乱ポテンシャルが高い（特に北伊丹地区）上に、再生箇所の上流域での掘削が実施されており、上流域から土砂移動が生じやすい状況が生じていたことが河原・水陸移行帯の維持に一定の効果があった可能性があることを確認した。



自然再生箇所の土砂移動の評価

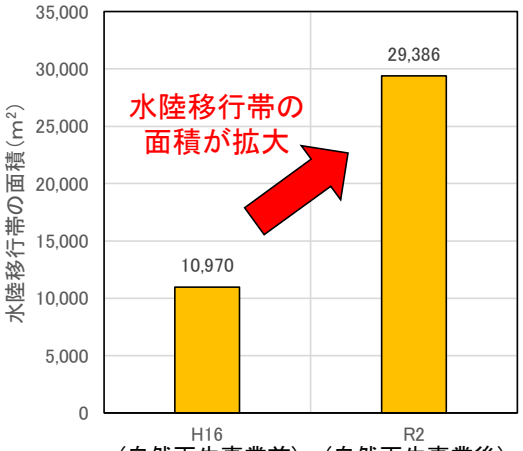
【環境】河岸－陸域の連続性の確保の取組状況（モニタリング結果）

○水陸移行帯の整備について、猪名川自然環境委員会における委員意見。
・物理環境の変化として水陸移行帯がどのように変化したのかを見ることが重要であり、示すべき。
・植物の面積変化について、種の組成の情報と合わせて整理すべき。

【水陸移行帯の面積変化】

○河道掘削工事及び水陸移行帯・河原環境の再生による水陸移行帯の変化を把握するため、河道掘削実施前の平成16年度と令和2年度の定期横断測量から水陸移行帯の面積を比較。

○工事前の平成16年度には約11千m²であったが、工事後の令和2年度には約29千m²まで水陸移行帯の面積が拡大しており、物理環境としては、水陸移行帯の面積が大きく増大。



水陸移行帯の面積
（猪名川5.4k～9.8k）

※平面二次元流況解析により60日冠水位を算定し、横断図に60日冠水位を反映し、航空写真から水際位置を設定し、60日冠水位と平水時の水際位置の間を水陸移行帯として面積を算定した。

【植物の経年変化】

○自然再生事業（水陸移行帯・河原環境の再生）前から近年を対象に、猪名川の河原環境に生育するカワラハハコ−カワラヨモギ群団の主要構成種の経年変化を整理した。

○自然再生事業により河原環境は再生されたが、昭和30年代に確認されていた河原環境の指標種は一部の確認にとどまり、全体的な回復には至っていない。

○今後も、自然再生事業箇所のモニタリングを継続して実施する。



キバナノカワラマツバ
（桑津地区河原環境再生箇所）

猪名川の河原環境に生育するカワラハハコ−カワラヨモギ群団の主要構成種の経年変化

種名※1	S30 (1955)	S37 (1962)	H6 (1994)	H11 (1999)	H16 (2004)	H21 (2009)	H26 (2014)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R7※2 (2025)
カワラヨモギ	●	●	●								
カワラサイコ	●	●				●		●			
カワラケツメイ	●	●		●			●				
キバナノカワラマツバ※3	●	●	●	●	●		●	●	●		●
カワラナデシコ	●	●	●	●	●				○※4		○※4
カワラハハコ		●									
コマツナギ	●	●	●	●							
ミサコグサ	●	●	●	●							
マルバヤハズソウ		●	●	●	●	●	●			●	
ヤハズソウ	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●
メドバキ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
計	9種	11種	8種	8種	5種	4種	5種	4種	3種	3種	4種

河原環境の指標種・補足事項（案）より

参考文献（一部変更）
「服部・南山（2025）シルビアシジミおよび本種の生息環境に係わる基礎調査. 兵庫県自然研究報告第14号. 兵庫県自然研究会」
備考）S30は伊丹市植物目録、S37は大阪府植物誌による。H6以降は河川水辺の国勢調査及びその他の環境調査の結果を整理しており、礫河原の調査結果以外を含むものである。
※1　種の並び順は、「河川水辺の国勢調査を行う上での猪名川における補足事項（案）」の河原環境の指標種とそれ以外の植物で分けて記載し、経年確認状況により並び替えた（過去の記録のみの種を上、近年まで記録のある種を下）。
※2　R7は現地踏査等により確認した結果を追記したものである。
※3　キバナノカワラマツバはカワラマツバを含む。
※4　「○」は植栽由来であることを示す。
・カワラナデシコ（H30、R7）は、ボランティアグループの活動による猪名川産由来の植栽、H25頃から活動を継続

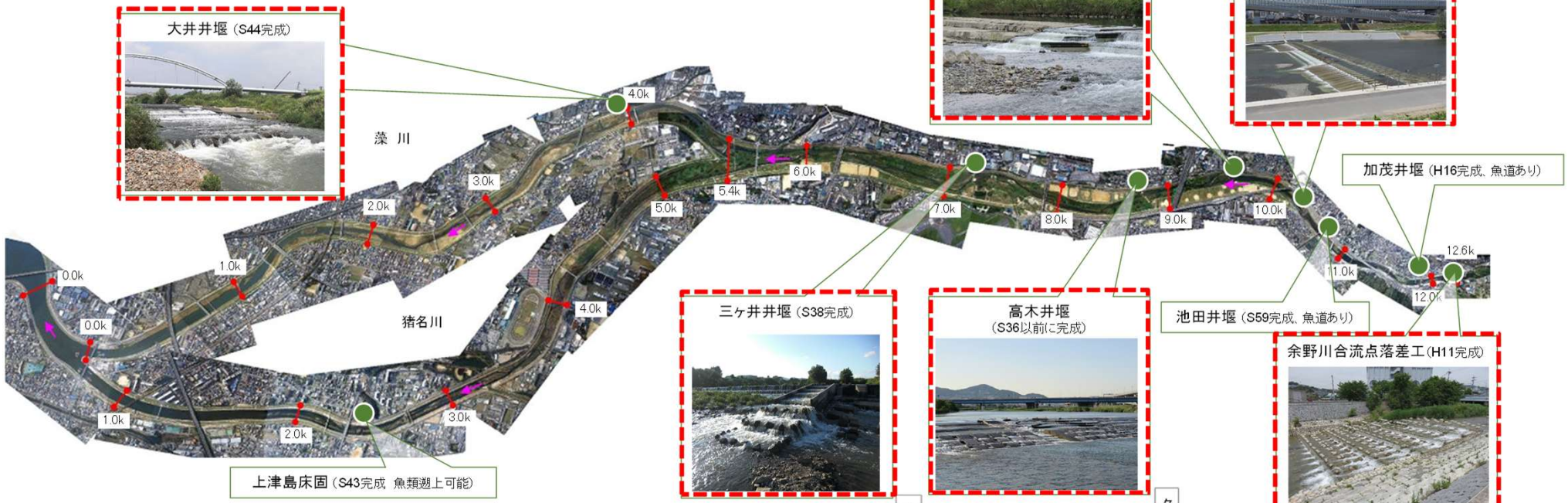
【環境】連続性の確保（河川縦断方向の連続性回復）

＜河川環境＞
内湾-汽水域-河川の連続性の確保
⇒4.2.3.　河川の連続性の確保

＜猪名川における整備計画＞
・魚が上りやすい川への再生として、大井井堰から池田床固までの魚道の設置や改善などを実施済。
・猪名川では、平成20年度より、縦断連続性の回復を目的とした魚道（簡易魚道を含む）の整備を行い、平成26年度に完了しており、継続してモニタリングを実施。

＜河川環境＞
生態系・生物群集多様性の維持・回復に向けた取組
⇒4.2.2.　多様な生態系を有する淀川水系の再生と次世代への継承

進捗率100%
（６箇所／６箇所）



※上津島床固については魚道は設置されていませんが、部分的に落差が小さい箇所があることから魚類が遡上可能です。



簡易魚道設置後の指標種の分布状況（アユ）

○簡易魚道の整備による効果や影響を把握するため、指標種（アユ、ウキゴリ類、モクズガニ、テナガエビ）を設定し、整備前後に効果検証のための簡易魚道モニタリング調査を実施。

○代表的な指標種であるアユについての生息分布域の状況を確認した結果、アユは全地点遡上可能であり、余野川合流点落差工上流まで遡上していることを確認。

【環境】連続性の確保（河川縦断方向の連続性回復）

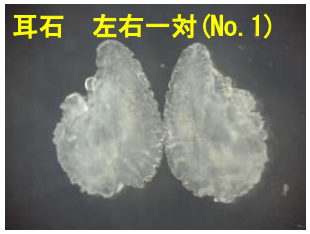
＜整備による効果＞
〇河川縦断方向の連続性回復について、猪名川自然環境委員会における委員意見。
・魚道の改善が個体群の増減にどう影響したかを評価するために、アユが下流域から遡上したのか、上流域で放流したものが生息しているのか、履歴を把握できると良い。耳石を調べると判別できると考えられる。

【アユの耳石調査】

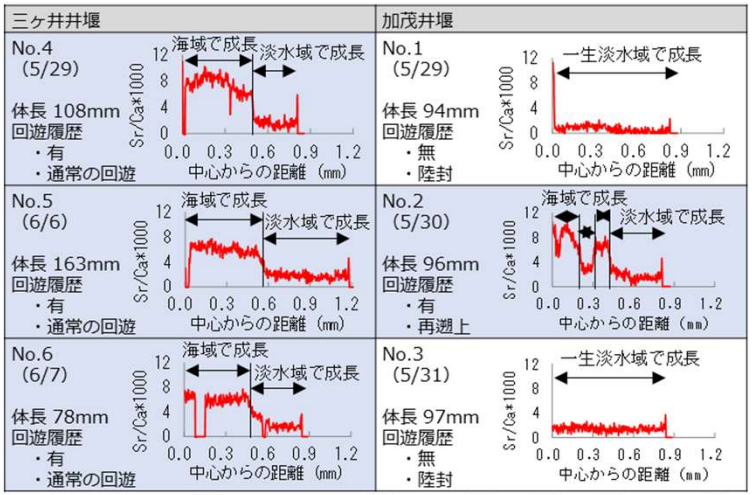
〇耳石調査により魚類の回遊履歴を調べることが可能であり、三ヶ井井堰及び加茂井堰の遡上調査時に捕獲された6個体を対象に耳石調査を実施。

〇三ヶ井井堰の3個体及び加茂井堰の1個体は回遊型であり、海域から遡上し上流の加茂井堰まで達した個体がいることを確認。加茂井堰の残り2個体は陸封型であり、放流個体である可能性が考えられる。





各分析検体のアユ耳石のSr/Ca比の推移

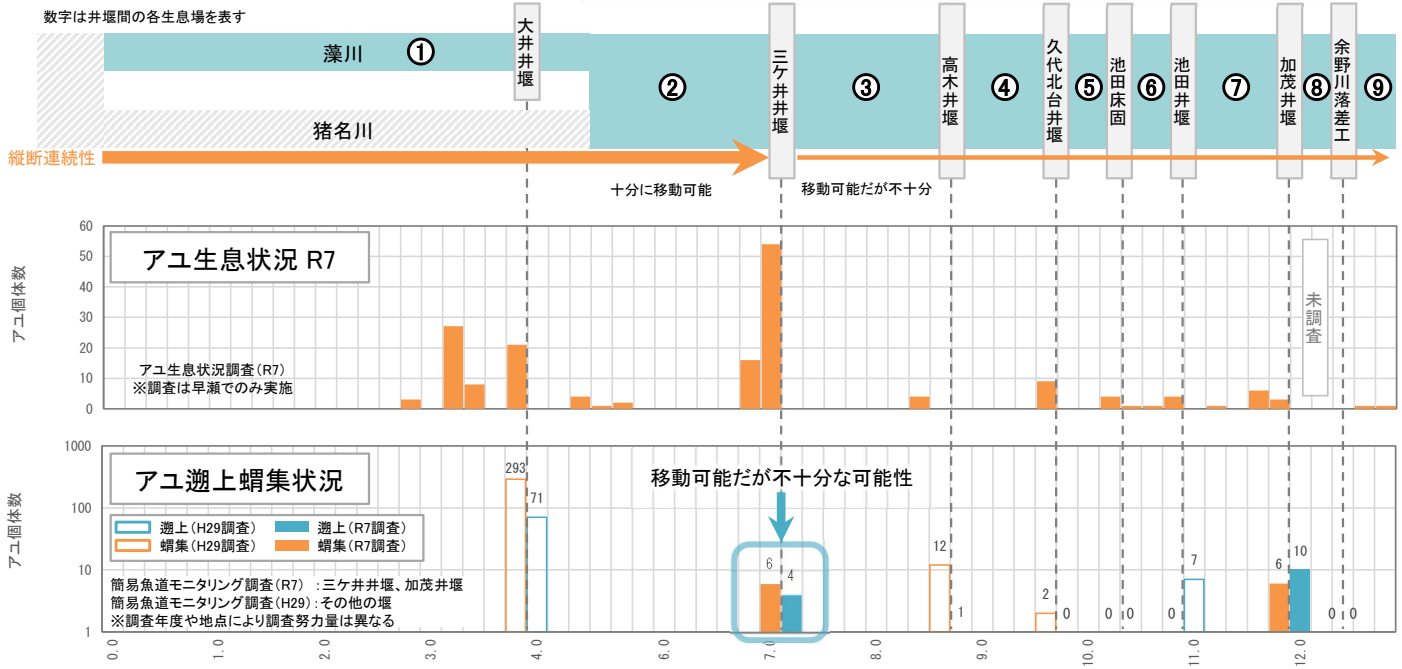


【アユの生息状況調査】

〇アユ生息状況調査（R7実施）の結果より、アユの確認個体数は区間①と②で多く、その他の区間は10個体以下であった。

〇アユ遡上蝟集調査（H29、R7実施）の結果より、大井井堰の遡上・蝟集の個体数が多く、その他の堰は10個体程度又は個体が確認されない箇所もあった。

〇三ケ井井堰上流（区間③～⑨）の確認個体数が少なかった要因として、井堰による移動阻害、瀬淵環境の不足、生息場の質の問題、遡上量の不足等が考えられる。



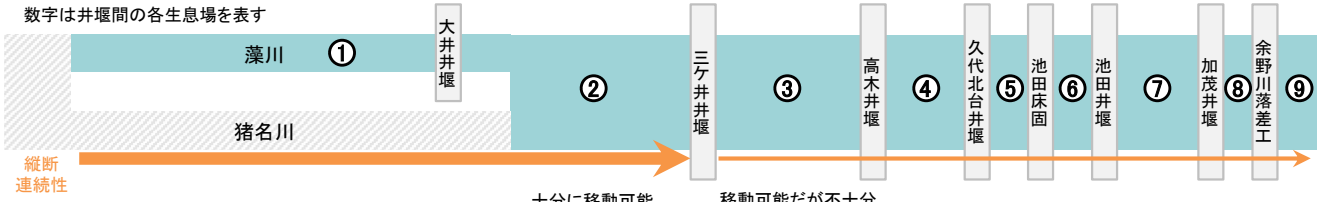
藻川　魚道間のアユの遡上・蝟集状況及び生息状況　猪名川

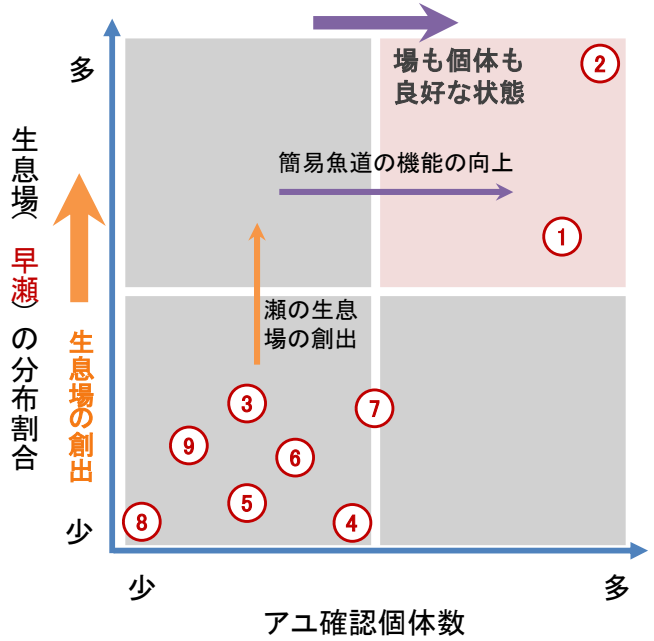
【環境】連続性の確保（河川縦断方向の連続性回復）

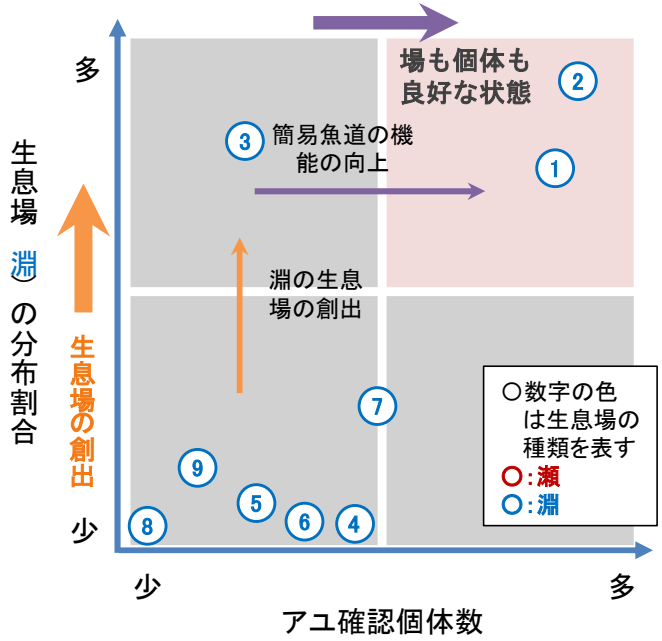
＜整備による効果＞
〇アユの耳石調査及び生息状況調査から、魚道改修による遡上数の回復及び瀬淵環境と生息場の質向上について整理した。

◆魚道改修による遡上数の回復
〇簡易魚道のモニタリングとして、三ケ井井堰の簡易魚道は遡上個体確認され“移動は可能”と評価したが、全体の遡上量に対して十分な個体数が遡上できているかは確認できておらず、より生物が利用しやすい魚道に改修することで三ケ井井堰上流の区間のアユの個体数が回復する可能性がある。

◆瀬淵環境の創出と生息場の質向上
〇区間③は淵環境が十分にあるが、早瀬環境は少ない。区間④～⑨は早瀬・淵ともに少ない状況を経年的に確認。
〇三ケ井井堰の上下流で瀬淵環境に質的な差異があり、アユの確認個体数に差が生じた可能性も考えられる。
〇より良い瀬淵環境を創出し生息場の質と量を高めていくことで遡上してきたアユが定着しやすくなると考えられる。











アユ生息状況調査において、最も多くの個体数が確認された箇所）（猪名川7.0K左岸付近）





三ヶ井井堰の簡易魚道の状況（猪名川7.2k付近）

【環境】流域の土砂生産・移動・堆積の実態把握（一庫ダム土砂還元）

＜河川環境＞流域の土砂生産・移動・堆積の実態把握
⇒4.2.5. 流域の視点に立った水循環・物質循環系の構築

＜猪名川における整備計画＞
・土砂移動の障害となっている既設ダムを対象に、下流河川環境への影響を調査した上で、必要に応じて下流への土砂供給を実施するなど、その障害を軽減するための方策を実施する。
・一庫ダムでは平成15年以降、ダム直下では累計約16,000m³の土砂還元を実施し、ダム下流河床のクレンジングを行い、魚類が棲息しやすい河川環境を復元。

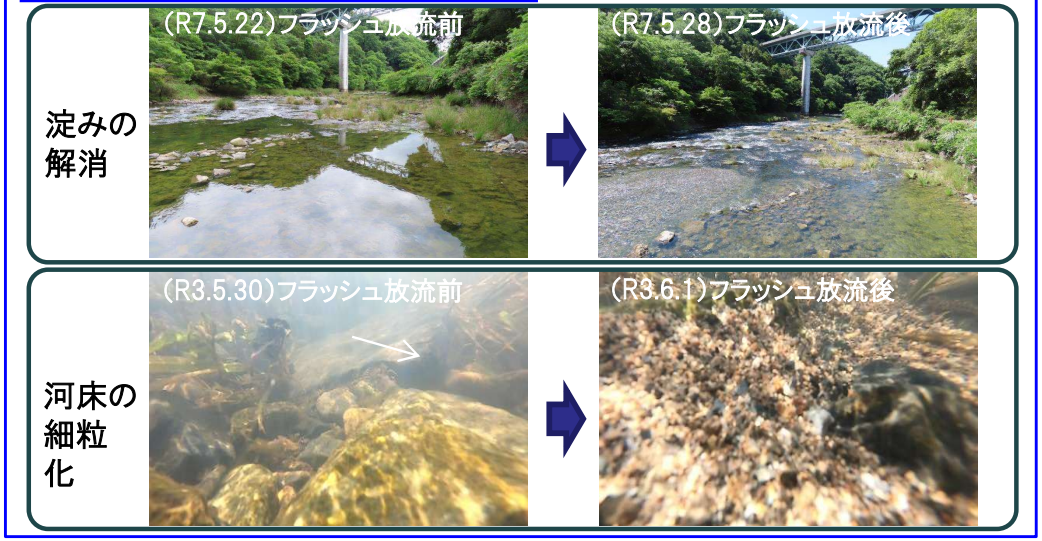


フラッシュ放流実施状況　一庫ダム直下（令和7年5月26,27日）



- 一庫ダムでは年1回、土砂還元を伴うフラッシュ放流を実施
- 放流量は12.0m³/s（この時期の通常放流量の約4倍）を約4時間継続
- この操作により、下流河川では水位が最大約50㎝上昇し、平均流速が最大約1.0m/sに上昇（スピーカー放送・下流巡視を実施）
- 還元土砂は事前に粒度組成・水質分析を実施し、含有物の安全性を確認。
- 土砂還元の際は、猪名川漁業協同組合も含めて、関係機関に連絡した上で行っている。

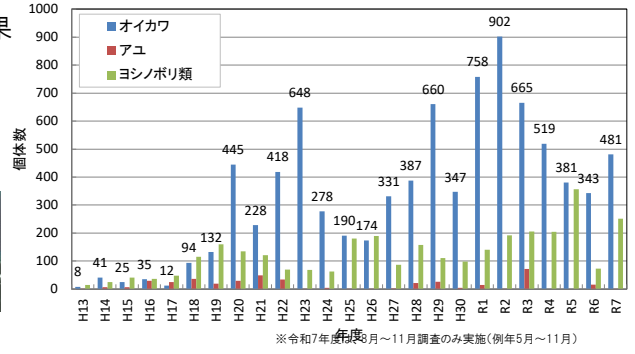
土砂還元＋フラッシュ放流の実施事例



ダム直下地点における魚類調査結果







・土砂還元実施以降、魚類の確認数が増加。数多くのアユのハミ跡も確認。

【人と川とのつながり】住民参加プログラムの取組状況

〈猪名川における整備計画〉
・できるだけ多くの人々に川に関心を持っていただき、川に直接触れていただき、川のことを自ら考え、行動していただけるよう、住民参加・協働型の取組を推進。
・猪名川の愛護セミナーをはじめとする水生生物調査や、水環境交流会等の体験学習などを通じて地域住民・住民団体等と連携・協働することで、人と川をつなぐ取り組みを継続的に実施。

＜人と川とのつながり＞
住民・住民団体（NPO等）との連携
住民に関心をもってもらうための取り組み
⇒4.1.2. 日常からの人と川とのつながりの構築
＜河川環境＞
外来種対策の実施
⇒4.2.2. 多様な生態系を有する淀川水系の再生と次世代への継承

猪名川の愛護セミナー

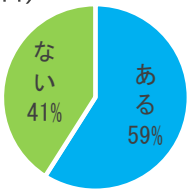
○「猪名川の愛護セミナー」は、住民の皆様に、猪名川に触れていただきたい、関心を持っていただきたい、という思いで、開催。
○昭和５９年から毎年開催、今年で４２年目を迎えるイベントとなります。これまで親子連れを中心に延べ７，０００人程が参加しています。
○住民協働による水環境学習（猪名川に触れることにより水環境を実感し、理解を深める）と猪名川の水質の把握（水生生物による水質判定結果を経年的に蓄積）に寄与。。



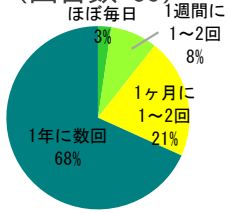




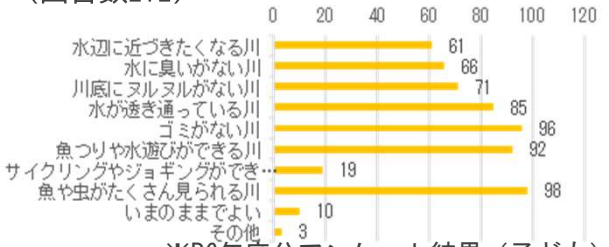
■猪名川の利用（回答数144）



■頻度（回答数 85）



■猪名川をどんな川にしたいか（回答数272）



※R6年度分アンケート結果（子ども）

猪名川水環境交流会

○神崎川水質汚濁対策連絡協議会猪名川分科会は、平成22年度に設立され、住民に広く広報するために猪名川水環境シンポジウムを開催。
○平成２５年度からは、子どもが楽しみながら学べる「交流会」の企画で実施、平成２８年度からは中学生による研究発表と体験ブースをメインとする現在のいながわ体験フェスタとして開催し、流域の自治体や団体や企業、学生に出展を実施。
○Ｒ７年度は、399名（子ども191名、保護者208名）の来場者があり、体験を通して猪名川の水環境に興味を持ってもらうことができた。



体験ブース





ステージプログラム





◆参加者の声
・子どもが体験を楽しんでいた！
・親子で学習することができてよかった。
・学生の発表がわかりやすくとてもかった。

【人と川とのつながり】住民・住民団体（NPO等）との交流状況

・河川協力団体、漁業協同組合、住民団体や河川レンジャー等と連携して、アユの産卵場作り及びヒメボタル幼虫観察会の活動に取り組んでいるほか、小中学校の総合学習と連携した活動にも取り組みを実施。

＜人と川とのつながり＞
住民・住民団体（NPO等）との連携
住民に関心をもってもらうための取り組み
⇒4.1.2.　日常からの人と川とのつながりの構築
＜河川環境＞　外来種対策の実施
⇒4.2.2.　多様な生態系を有する淀川水系の再生と次世代への継承

アユの産卵場作り

〇平成２９年度より漁業協同組合と共同で、ＮＰＯ、河川協力団体の協力のもと、アユの産卵場づくりの体験活動を一般住民を対象に実施。
〇猪名川の環境やアユの生育の現状を知ってもらい猪名川の水質改善について理解を深めてもらうことを目指す。




イベントの様子

〇申込者数（定員50名）

R5	R6	R7
79	101	92


アユのお話


アユの卵


はみあと

◆参加者の声
・アユについて体験しながら学べました！
・思った以上に川がきれい。身近な川に触れる機会が持ててよかったです。
・耕すところが楽しかった！

ヒメボタル幼虫観察会

〇令和２年度より河川協力団体と連携して、流下阻害の低減とヒメボタル生息地保全の両立のために樹木伐採を実施。
〇当該箇所では、平成２９年度より幼虫の採取観察会を河川協力団体のほか住民団体、高校生と連携して実施しており、猪名川の植生環境の改善及び河川環境保全に対する意識向上を継続して図る。





河川協力団体による樹木伐採活動

ヒメボタル幼虫調査・観察会



〇申込者数

R5	R6	R7
71	45	51



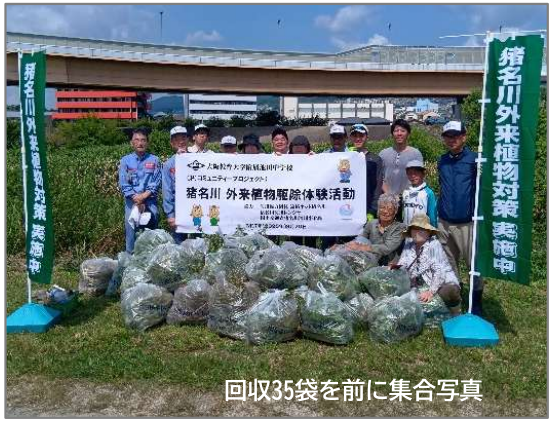
ヒメボタル幼虫



◆参加者の声
・自然を守る活動が行われていることが知れてよかった。
・トラップがとりやすかった！
・（幼虫）たくさん見つかりました！

外来植物駆除体験活動

〇大阪教育大学附属池田中学校では、総合学習の一環で、地域で奉仕活動を行うコミュニティープロジェクトに取り組みを実施。
〇猪名川に繁茂する特定外来生物であるアレチウリの駆除体験活動の相談を受け、河川協力団体流域ネット猪名川に参画を依頼、猪名川河川レンジャーも参加し、今回新たな活動として、四者共同で７月と８月の２回実施。



回収35袋を前に集合写真


作業前の説明


作業中の中学生

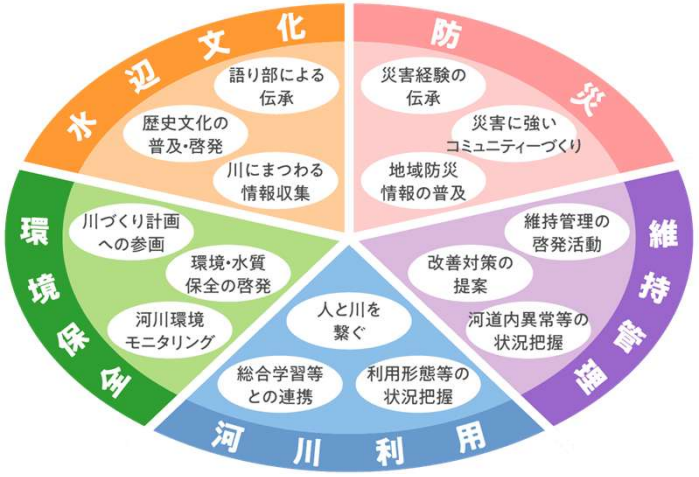
◆活動結果
1時間ほどの作業で、ゴミ袋１回目１８袋分、２回目３５袋分を回収することが出来ました。
◆参加した中学生の声
・大変だったけど、良い経験になった。
・今後の発表や発信に生かしていきたい。


在来種保全活動についても学習中

【人と川とのつながり】猪名川河川レンジャーの取組状況

・地域と連携した河川整備を進める上で、住民に関心を持ってもらい、住民参加型の河川整備の推進を支援する立場で、住民と行政との関係をコーディネートし、人と川をつなぐ河川レンジャーを継続的に確保していく。

＜人と川とのつながり＞
河川レンジャーの充実
⇒4.1.2.　日常からの人と川とのつながりの構築



猪名川流域の水辺での活動などを通じて、「防災」「維持管理」「河川利用」「環境保全」「水辺文化」の５つの分野に貢献

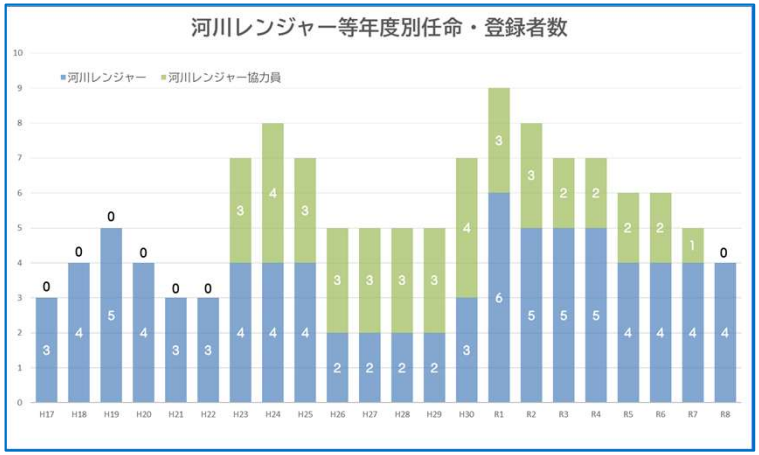
■令和７年度猪名川河川レンジャー活動

区　分	活　動	R7実績	日程	５分野	小分類
対外活動	河川R主催活動	ヒメボタル観察会	5/23	①環境保全	河川環境モニタリング
		猪名川・藻川の防災歴史散策会（尼崎市東園田町会）	1/24	⑤水辺文化	歴史文化の普及・啓発
	出前授業	水質調査体験（いながわプロジェクト）	4/19	①環境保全	環境・水質保全の啓発
		池田市地域まるごと環境学習（池田市立神田小）	6/19	②河川利用	総合学習との連携
		水質調査体験（猪名川町立猪名川中3年生）	11/28	②河川利用	総合学習との連携
		外来植物駆除体験（大阪教育大学付属池田中）	7/28、8/20	①環境保全	川づくり計画への参画
	防災講座	マイ・タイムライン講師養成講座（猪名川町防災士の会）	4/19	④防災	地域防災情報の普及
		マイ・タイムライン作成講座（豊中市）	12/18	④防災	地域防災情報の普及
		みんなのサマーセミナー（尼崎市）	8/2	④防災	地域防災情報の普及
	広報啓発展示	水辺で乾杯（猪名川河川事務所）	7/7	②河川利用	人と川を繋ぐ
		伊丹市生物多様性交流フェスティバル（伊丹市）	1/7	①環境保全	環境・水質保全の啓発
	体験ブース出展	いながわ体験フェスタ（猪名川分科会）	8/3	①環境保全	環境・水質保全の啓発
		尼崎市民まつり（尼崎市民まつり実行委員会）	10/5	②河川利用	人と川を繋ぐ
全体活動	猪名川のい～な！	○作品募集・広報 ○入賞作品選考、表彰式 ○応募作品展　５会場	－	②河川利用	人と川を繋ぐ


ヒメボタル観察会


出前授業


マイタイムライン作成講座




防災歴史散策会


外来植物駆除体験


猪名川のい～な！

近年の活動充実は、運営委員から高評価
一方で、新規河川レンジャーの確保が課題

【利水】渇水への備えの強化　一庫ダムのR6渇水対応

＜猪名川における整備計画＞
・渇水時の被害を最小限に抑える対策として、利水者会議における平常時からの情報交換などにより、渇水時における渇水調整の円滑化を図る。
・令和6年度には一庫ダム流域での降雨が7月以降平年よりも少ない傾向が続いたことから、渇水調整会議を開催し、ダム下流への補給による貯水量低下に伴い、9月30日から11月6日までの38日間、水道用水の20%取水制限を行った。
・令和6年度の渇水では、平常時から水道事業者間の合意に基づく必要水量に応じたダムからの放流（自主調整(試行)）や、渇水調整前の自主的な制限（自主節水）の実施により、取水制限の開始を遅らせ、貯水量を温存することができた。

＜河川環境＞
流況の平滑化に対する河川環境の改善
河川環境上必要な流量を確保するための流況・位況（流量・水位の変動様式）の改善
⇒4. 2. 4.　川本来のダイナミズムの再生
＜利水＞
渇水調整の円滑化
⇒4. 4. 3. 渇水への備えの強化

■　一庫ダム　貯水池の状況



令和6年9月30日（月）
貯水率：59.6%（9時）
貯水位：EL.127.51m（9時）

貯水回復



令和6年11月6日（水）
貯水率：61.5%（9時）
貯水位：EL.139.1m（9時）

■　令和6年度の自主調整、自主節水の効果

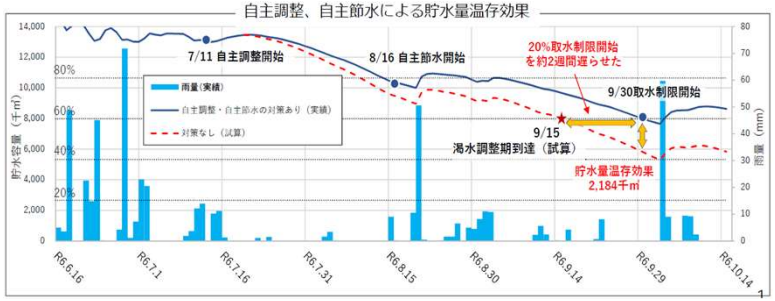
自主調整、自主節水の実施により20%取水制限開始を2週間遅らせ、貯水量を約2,000千㎥温存することができた。

◆自主調整実施（渇水時を除く平常時）

川西上下水道局	令和6年7月11日0:00～令和7年3月31日24:00
兵庫県企業庁	令和6年7月11日0:00～令和7年3月31日24:00
池田市上下水道部	令和6年8月16日0:00～令和7年3月31日24:00

◆自主節水実施

兵庫県企業庁、豊中市上下水道局、川西市上下水道局、
池田市上下水道部　令和6年8月16日0:00～令和6年11月6日9:00
大阪広域水道企業団（豊能地域水道センター）



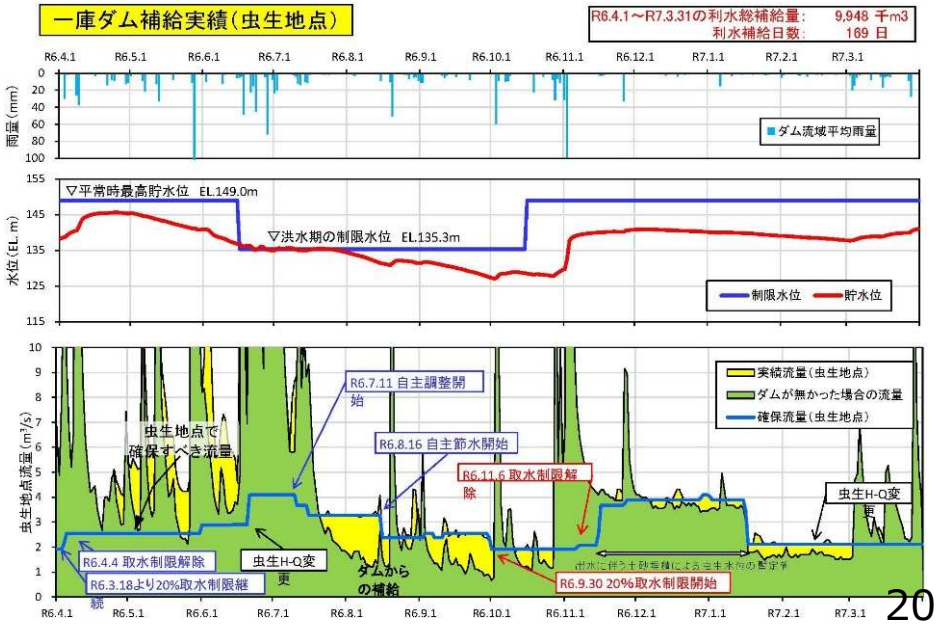
■　一庫ダム利水基準地点位置図



利水基準地点
流量確認地点

■　一庫ダムからの補給状況

一庫ダムからの適切な補給により、利水及び環境への深刻な影響を回避。



【利用】川らしい利用の促進

＜河川環境＞河川管理者以外の者が管理する施設に対する働きかけ
⇒4.2.6. 流域管理に向けた継続的な施策展開
＜利用＞陸域・水陸移行帯の秩序ある淀川利用に向けての誘導または規制の取組（川らしい河川敷利用）
⇒4.5.2. 川らしい利用の促進

＜猪名川における整備計画＞
・河川敷利用において、「川でなければできない利用、川に活かされた利用」を推進するという観点から、公園やグラウンドといった占用施設の新設及び更新の許可にあたっては「河川保全利用委員会」の意見を聴き、周辺環境・地域特性を考慮しつつ検討することとする。
・猪名川管内における公園やグラウンドの望ましい利用のあり方について意見を聴く為、毎年度、猪名川・藻川河川保全利用委員会を開催し、占用者に指導・助言を実施。

令和４年度委員会意見〔東久代公園〕
優れた自然環境が存在することを来園者に知らせるとともに、啓発するような看板の設置を検討していただきたい。

公園管理者が令和５年度に看板を設置し、自然環境に関する情報を掲示。





令和６年度委員会意見〔天王宮児童遊地〕
エドヒガンは猪名川の誇る特徴的な樹種であるため、そのことを市民に伝えられるようにしてもらいたい。

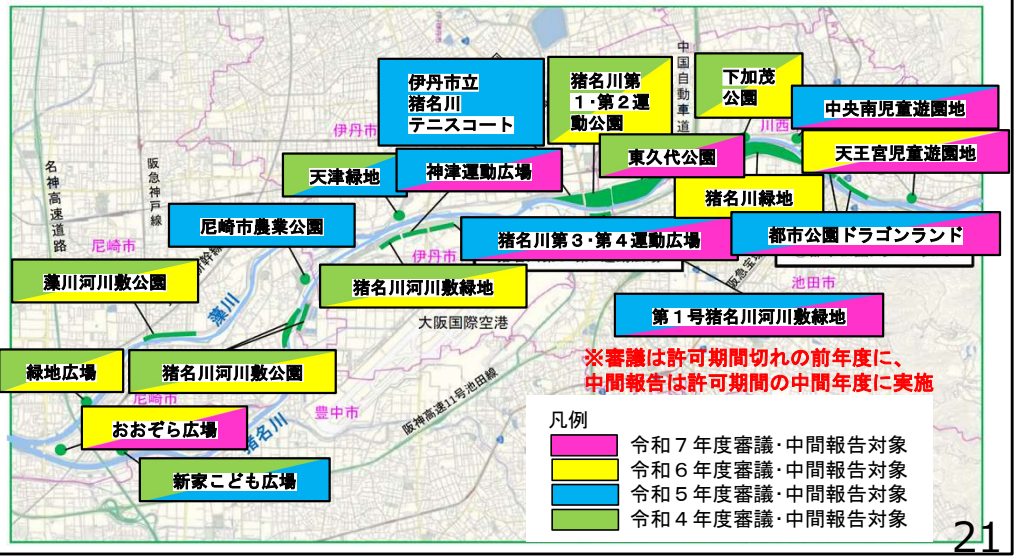
公園管理者がエドヒガンに関する情報を公園内に設置。





令和７年度委員会意見（一部抜粋）
・チガヤ群落が良好に発達した堤防法面があり、適切に保全していただきたい。〔神津運動公園〕
・兵庫県の絶滅危惧種Ａランクに指定されているツルフジバカマやクサボケの保全対策を引き続き実施していただきたい。〔猪名川第３・第４運動公園〕
・パーゴラの日よけは、フジを用いることも検討していただきたい。〔おおぞら広場〕
・シナダレスズメガヤ・セイバンモロコシ等の外来種の駆除といった植生管理を積極的に進めていただきたい。〔第１号猪名川河川敷緑地〕
・堤防側法面の植生が放置され、動物の巣穴が発生する要因にもなっているので、市道の管理者と連携して適切に対応されたい。〔都市公園ドラゴンランド〕

指摘件数と対応件数
令和４年度：１８件指摘→１７件対応、令和５年度：１２件指摘→１０件対応、令和６年度：２２件指摘→２０件対応、令和７年度：２１件指摘→２０件対応



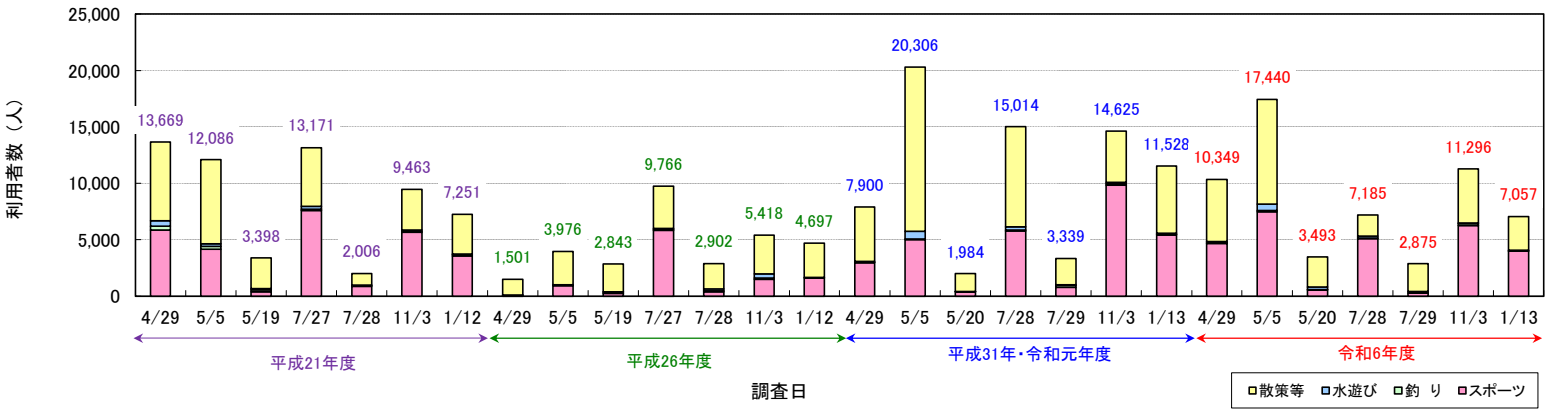
【利用】河川敷の利用者数の変化

典型的な都市河川である猪名川は、その恵まれた空間特性や都市に残された貴重な自然環境として、散策、レクリエーションなど多くの人々に利用されている。高水敷は、広範囲にわたり河川公園、グラウンドとしての利用が多い状況となっている。
河川内においても、休日などに親子がタモ網を使って小魚を追いかける姿や、連れ立って川の中で遊ぶ子供らの姿が見られ、都市部に残された身近な数少ない自然環境として、地域の住民に親しまれ利用されている。

○調査日の利用者数

例年、ゴールデンウィーク期間である4月29日と5月5日は、降雨のあった平成26年度の調査を除き利用者が多くなる傾向である。

一方で、7月最終日曜日は過年度調査では利用者が多くなる傾向にあったが、年々少ない傾向にあり、異常な猛暑による影響で、散策等の利用者が減少したためと考えられる（令和6年7月28日の最高気温36.0℃）。



利用者数の経年結果

○年間河川空間利用者総数（推定）

令和元年度と比較すると、令和6年度の年間推計値は83%と減っている。

利用形態別についてみると、水遊びの利用者数のみが令和元年度から139%と増加している。これは、令和6年の異常な猛暑により、納涼のため利用者が水遊びに訪れたためと推測される。

利用区域別の比率については、過年度調査含め、概ね施設的が約6割、自然的が約4割となっており、猪名川・藻川の利用者の多くはグランド等の施設利用が目的であることが伺える。

区分	項目	年間推計値（人） 平成21年度	平成26年度	令和元年度（平成31年度）	令和6年度	今回/前回
利用形態別	ｽﾎﾟｰﾂ	943,916	285,591	822,740	723,044	88%
	釣り	43,635	15,753	16,578	11,783	71%
	水遊び	38,431	31,906	26,298	36,443	139%
	散策等	1,033,767	704,727	1,083,799	855,916	79%
	合計	2,059,749	1,037,977	1,949,415	1,627,186	83%
利用場所別	水面	481	5,965	4,253	13,284	312%
	水際	81,585	41,694	38,623	34,943	90%
	高水敷	1,377,840	540,088	1,230,795	922,075	75%
	堤防	599,843	450,230	675,744	656,884	97%
	合計	2,059,749	1,037,977	1,949,415	1,627,186	83%
利用区域別	施設的	1,197,125	633,271	1,118,787	1,016,234	91%
	自然的	862,624	404,706	830,628	610,951	74%
	合計	2,059,749	1,037,977	1,949,415	1,627,186	83%

区分	項目	利用状況の割合 平成21年度	平成26年度	令和元年度（平成31年度）	令和6年度
利用形態別	ｽﾎﾟｰﾂ	46%	27%	42%	44%
	釣り	2%	2%	1%	1%
	水遊び	2%	3%	1%	2%
	散策等	50%	68%	56%	53%
利用場所別	水面	0.02%	1%	0.2%	1%
	水際	4%	4%	2%	2%
	高水敷	67%	52%	63%	57%
	堤防	29%	43%	35%	40%
利用区域別	施設的	58%	61%	57%	62%
	自然的	42%	39%	43%	38%

年間の推計利用者数

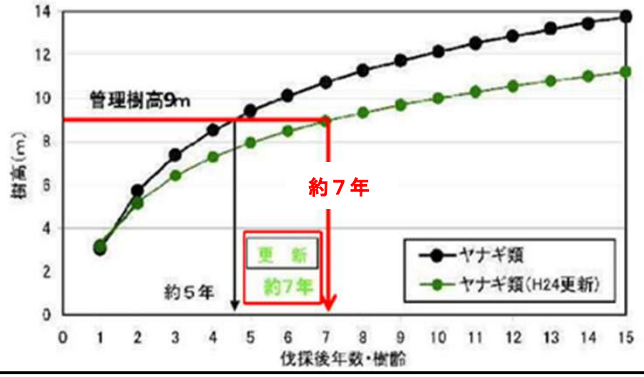
【維持管理】 河川区域等の管理

＜猪名川における整備計画＞
・洪水の流下を阻害するなど河川管理上支障となる河道内樹木については、地域の景観や生物の生息・生育・繁殖環境に配慮した上で、河川維持管理計画に基づき、河道流下断面を確保するよう計画的に伐採を実施する。
・猪名川管内では、実施方針を維持管理計画（令和2年作成）で整理しており、樹木伐採の優先順位を樹木管理計画で定めて下流から順次実施。
①河道内の樹木群については治水、管理等の観点から基本的に全て伐採する。（7年サイクル）
②各樹木群の管理上の支障の程度の評価を行い、優先順位をつけながら伐採を実施。
なお、ヒメボタル保全範囲が含まれる樹木群についてはヒメボタル保全範囲を伐採対象から除外。

＜維持管理＞
河川区域等の管理
4.6.4. 河川区域等の管理

○維持管理計画における支障の程度の評価項目樹木伐採優先度の考え方
対象樹木群の支障の把握については、樹木管理の評価項目を「治水」「管理」「環境」の観点から「堤防等河川管理施設及び河道の点検・評価要領」に基づき、設定。

区分	評価項目	内容	
治水	洪水流下を妨げる樹木群	流下能力の阻害要因となっている可能性がある樹木群	
管理	河川管理施設の機能保持等	堤防	堤防周辺に繁茂することで、施設の変状が生じる恐れのある樹木群
		低水 護岸	低水護岸周辺に繁茂することで、施設の変状が生じる恐れのある樹木群
		樋門	樋門周辺に繁茂することで、施設の変状が生じる恐れのある樹木群
			堤外水路に繁茂することで、流下を妨げる恐れのある樹木群
		水位 観測所	水位観測所周辺に繁茂することで、施設の変状が生じる恐れのある樹木群
		橋梁	橋梁周辺に繁茂することで、施設の変状が生じる恐れのある樹木群
	河川空間監視	河川巡視	河川巡視の際に視認阻害となる樹木群
		CCTV	空間監視（CCTV）の視認阻害となる樹木群
環境	河川利用	周囲からの視界を遮蔽してごみの投棄を誘発することで、河道の景観、自然環境の支障となる恐れのある樹木群	
伐採経過年		過年度の伐採から7年以上経過している樹木群	



○猪名川では、過去の検討において、河川管理上の支障が生じる樹高を9mと定め、猪名川に多く繁茂しているヤナギ類が伐採後7年程度で管理目安となる9mを超過することから、河道内の樹木群については7年に1回伐採する方針を設定。

①伐採対象樹木群の整理
樹木管理計画の対象とする樹木群の「面積」「位置」を整理

②対象樹木群の支障の程度の把握
「治水」「管理」「環境」等の観点から各伐採対象樹木群の支障（影響）の程度を把握する。

③伐採優先順位の設定
②の検討結果をもとに総合点方式により優先して伐採すべき樹木群とそうでない樹木群を評価する。

④伐採手法、伐採サイクルの設定
伐採にかかるコスト等を考慮したうえで、各伐採対象樹木群の伐採手法や伐採サイクル（頻度）等を設定。

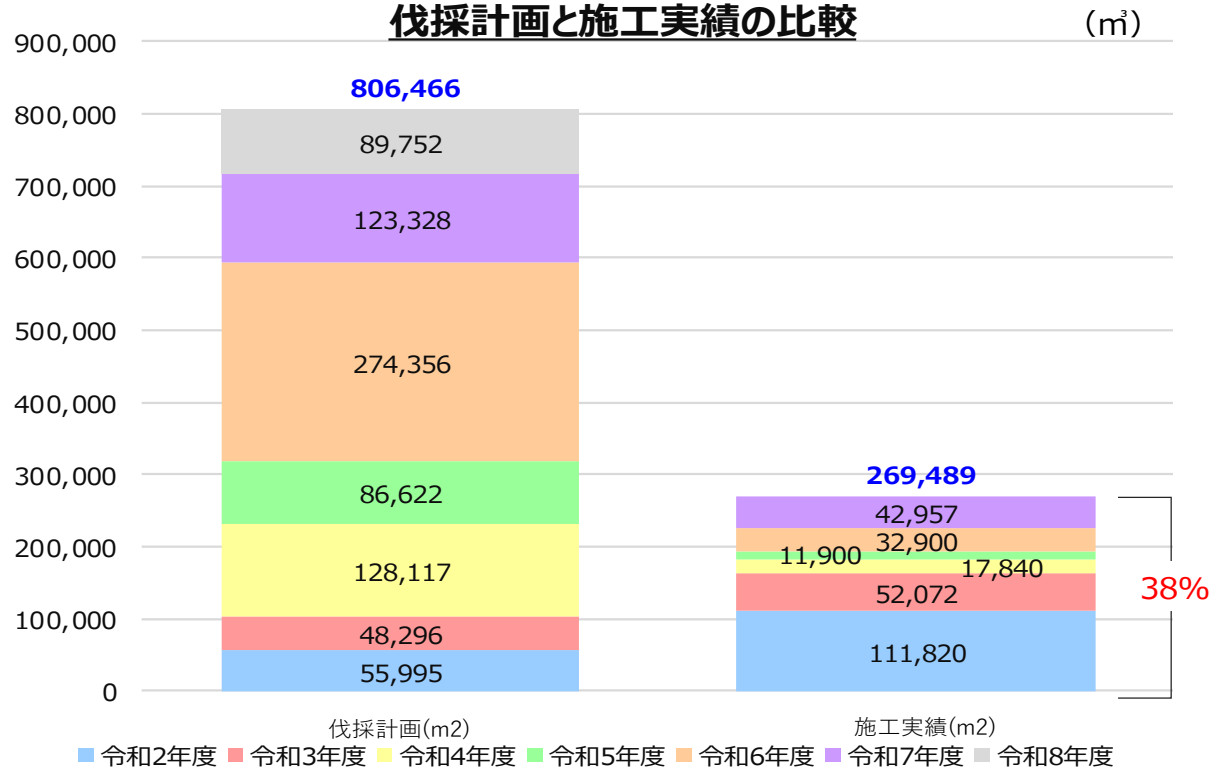
⑤伐採計画図面、資金計画の作成
①～④の検討を踏まえて伐採計画図面、資金計画の更新。

樹木管理計画の検討手順

【維持管理】 樹木伐採取組状況

<維持管理>
河川区域等の管理
4.6.4. 河川区域等の管理

・令和2年から3年度にかけては、樹木管理計画以上の樹木伐採を進めるものの、近年は優先される維持作業を行うことで計画どおり伐採が行えていない。
・伐採木の幹部分について、地域住民への無償提供を行うことで、コスト縮減を図っているものの、近年は伐採の進捗がはかれておらず、７年サイクルの伐採が困難なため、伐採対象樹木群の考え方や伐採サイクルの持続的可能な計画を見直しを予定。







年度	伐採計画(m2)	施工実績(m2)
令和2年度	55,995	111,820
令和3年度	48,296	52,072
令和4年度	128,117	17,840
令和5年度	86,622	11,900
令和6年度	274,356	32,900
令和7年度	123,328	42,957
令和8年度	89,752	-
合計	806,466	269,489
令和7年度までの（実績/計画）%	38%	

【維持管理】樹木管理計画の見直し方針

・民間事業者による伐採木の活用については聞き取り調査の結果、猪名川河川事務所としては民間事業者の参入は見込めないと判断。
・猪名川の河道内樹木は水際の河岸部分に多く生えており、河川法第25条に基づく公募は安全の観点から難しく、公募配布も応募者が少なくコスト縮減につながらないことから、令和2年度以降は幹部分の無償配布のみ行っている状況（幹部分は１００%）。
・今後、河道内の状況を勘案した樹木管理計画により、伐採サイクルの見直しを実施する。

＜維持管理＞
河川区域等の管理
4.6.4. 河川区域等の管理

○民間事業者の伐採木活用可能性について

令和７年度、対象事業者は「全国木材チップ工業連合会」「全国木材資源リサイクル協会連合会」「NPO 法人日本樹木リサイクル協会」の会員企業及び「日本木質バイオマスエネルギー協会HP（FIT認定木質バイオマス発電所一覧）」より抽出した。大阪府内及び兵庫県南東部（神戸市、芦屋市、西宮市、宝塚市、尼崎市、三田市、川西市、伊丹市、猪名川町）にリサイクル工場等が設置されている事業者に伐採木の活用について調査をおこなった。

聞き取り調査の結果、「生木を取り扱っていない」「一般廃棄物処理業の許可を保有していない」との回答が大半を占め、参入の可能性は低いことが確認された。

猪名川（藻川２．４ｋ付近）の繁茂状況



Instagramでの周知（伐採木の無償配布）



○樹木管理計画の見直しについて

・猪名川の藻川との合流点より上流域は流下能力を概ね満足しており、巡視・管理の視点から伐採サイクルの見直しを行う。
・猪名川の藻川合流点より下流域については治水安全度の視点を優先とし、さらに河道掘削工事などの改修工事と連携して伐採することで、伐採サイクルの短縮に繋げる。
・改修事業による伐採を踏まえ、最新の再繁茂抑制対策の知見等を導入、樹木の再繁茂抑制と伐採コスト縮減を両立する方策をもとに、新たな伐採サイクルを計画する。

【維持管理】 樹木伐採における環境配慮事項

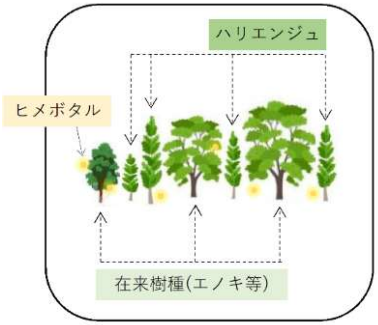
・外来樹種であるハリエンジュは在来の生態系への影響があるほか、根が浅く倒伏しやすいことから増水時には流倒木になるなど治水上のリスクも懸念される。
・猪名川管内では自然環境委員会において軍行橋下流のハリエンジュ群落の駆除の提言があったが、当該群落にはヒメボタルが生息しているため伐採範囲外となることや在来のエノキ等の樹木も混在しており、伐根や薬剤等による環境影響の大きい駆除は避ける必要があるため、環状剥皮によるハリエンジュ駆除を実施。

＜維持管理＞河川区域等の管理
4.6.4. 河川区域等の管理
＜河川環境＞外来種対策の実施
4.2.2. 多様な生態系を有する淀川水系の再生と次世代への継承
＜人と川とのつながり＞住民・住民団体(NPO等)との連携
4.1.2. 日常からの人と川とのつながりの構築
＜河川環境＞生物の生息・生育・繁殖環境に配慮した工事の施工
4.2.6. 流域管理に向けた継続的な施策展開



現在の状況

・ハリエンジュと在来樹種が混在
・ヒメボタルが生息



ハリエンジュによる生態系への影響のほか、ハリエンジュが倒伏することによる治水上のリスクが懸念される。

環状剥皮でハリエンジュのみ駆除

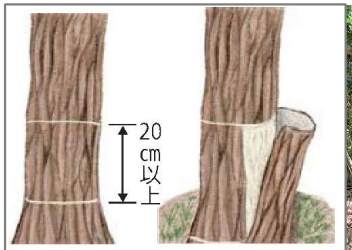
目標（目指すべき姿）

・在来樹種のみが存在
・ヒメボタルが生息



環状剥皮を実施

・再繁茂能力が非常に高いハリエンジュ（外来種）に対して、効果が期待できる環状剥皮を実施。

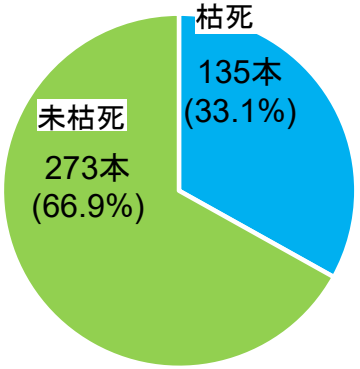


できるだけ根元で、20 cm 以上の幅を剥皮する。
※幅が短いと再生する。

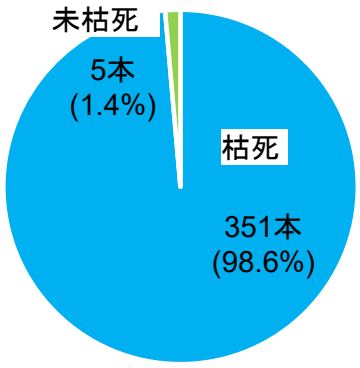


これまでの枯死状況の推移

・環状剥皮を実施したハリエンジュについて、目視による枯死の有無を確認。



令和４年５月時点



令和６年９月時点

当該箇所におけるヒメボタル観察会

・毎年５月下旬に地元住民団体が観察会を実施。



【最近の話題】 水辺の楽校プロジェクト

・淀川管内では、憩い、安らげる河川の整備をとして川らしい利用について検討を実施。
・猪名川においても川らしい利用として、市民団体や河川管理者、教育関係者などが一体となって、地域の身近な水辺（「子どもの水辺」）における環境学習や自然体験活動を推進するため、国土交通省、文部科学省、環境省の3省が連携して、『「子どもの水辺」再発見プロジェクト』の取組を実施。
・国土交通省では『水辺の楽校プロジェクト』として 子どもが安全に水辺に近づけ、環境学習や地域交流などの活動を推進するために必要な施設整備などの支援を行うものです。

「子どもの水辺」再発見プロジェクト（全国307箇所登録）

※国土交通省、文部科学省、環境省による連携施策

（教育関係者などが河川での環境学習や自然体験活動を行いたい場合）

①「子どもの水辺協議会」の設置

・教育委員会、河川管理者、市民団体等から構成
・子どもたちの河川の利用を促進し、体験活動の充実を図る

②「子供の水辺」登録

③ 活動支援
・資機材の貸出
・各種情報提供
・市民団体等のコーディネート　等

子どもの水辺サポートセンター（河川財団内に設置）



子供たちの河川の利用を促進。

水辺の楽校プロジェクト（全国288箇所登録）

「子どもの水辺協議会」

（河川整備が必要な場合）

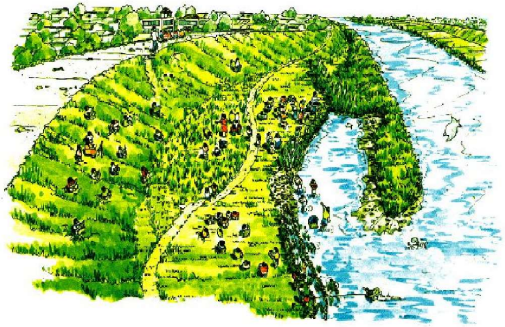
④「水辺の楽校」申請

⑤ 整備実施

河川管理者



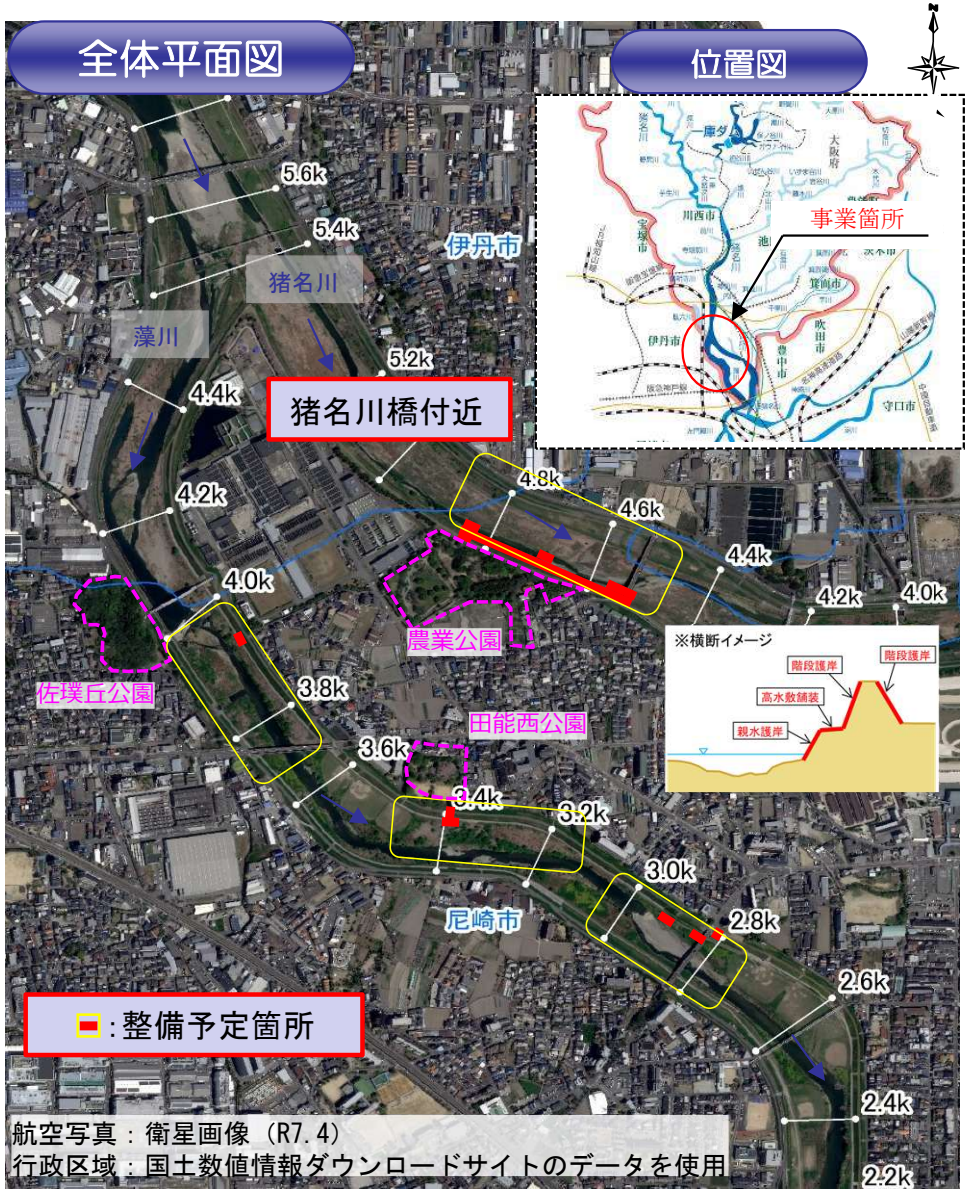
子どもが安全に水辺に近づけ、環境学習や地域交流などの活動を推進するために必要な施設整備などの支援を行うもの。



「水辺の楽校」のイメージ図

【最近の話題】 水辺の楽校プロジェクト

・猪名川管内の猪名川・藻川の周辺において、尼崎市のさらなる魅力向上を図る取組の一環として、地域の身近な水辺における河川環境学習や自然体験活動を行えるように、「水辺の楽校プロジェクト」を実施。
・現在、高水敷から低水路に降りる親水護岸がないため、子どもたちが安全に利用できる施設整備（親水護岸や階段護岸等）を実施予定。



○事業期間：令和９年度～令和１８年度
主要工種：親水護岸、階段護岸、
高水敷舗装







わずかな溝を使って、低水路に降りている



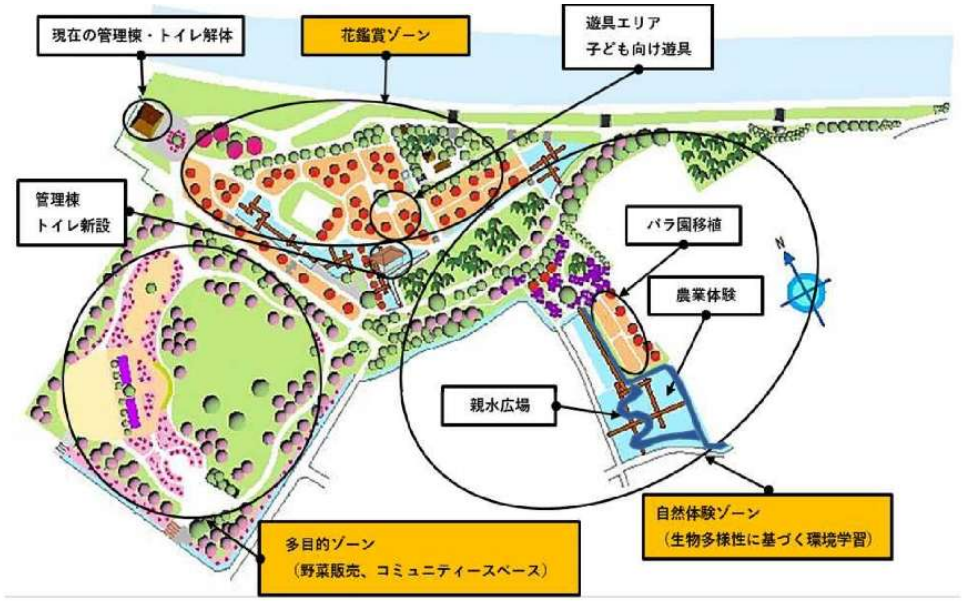
猪名川橋付近の低水護岸の状況

【最近の話題】 水辺の楽校プロジェクト

・今回する整備箇所は、農業体験や環境学習ができるなどファミリー世帯にとって魅力ある施設を目指した尼崎市農業公園と隣接しており、川と公園をつなぎ、季節や活動内容等に応じて活動できる取組に繋げる予定。

○尼崎市農業公園の再整備

- 施設老朽化に伴う管理棟・トイレの建替
- 農業公園の魅力向上に向けた再整備（ハナショウブ園等を集約し、廃止した場所を農業体験エリアとして活用、既存水路を活用し、子どもが安心して水遊びできる空間（親水広場）として整備）



尼崎市農業公園の再整備イメージ



管理棟のイメージ
※立面図を元にAIでイメージ図を作成



尼崎市農業公園の駐車場
（拡張工事完了後）

活動プラン別特徴の整理

項目	①猪名川橋付近	②中園橋付近	③上園橋下流付近	④上園橋付近
コンセプト	隣接する農業公園と連携した水辺の楽校	広い河原空間を活かした水辺の楽校	水陸移行帯を活かした水辺の楽校	閑静な環境を活かした水辺の楽校
生き物	オイカワ等の魚類、ヒメボタル等の昆虫類	アユ等の魚類、バッタ及びヒメボタル等の昆虫類	ホンシュウカヤネズミ（日本に生息する最小のネズミ）、オギ・ヨシ群落、魚類	鳥類（カワセミ、オオヨシキリ等）、野草（クズ、イタドリ等）
季節	春：4～6月、夏：7～9月、秋：10～12月	春：4～6月、夏：7～9月、秋：10～12月	夏：7～9月、秋：10～12月	春：4～6月、秋：10～12月、冬：1～3月
水域での活動内容	• 大人数の団体での環境学習・自然体験（川の浅瀬が広く、オイカワなどの小魚が豊富に生息している）	• 藻川に多く生息するアユの観察	• 水域での魚類観察	• ー（水深が深いため水域での活動は実施しない）
陸域での活動内容	• 高水敷での昆虫観察 • 堤防や農業公園でヒメボタルの観察会や生息環境保全活動による環境学習 • 旧流路林や慰霊碑などで自然観察・環境教育・地域史を組み合わせた総合学習	• 広い河原空間を活用した昆虫観察 • バッタや小魚等を捕獲し、河原や高水敷等を利用し、素揚げにして食文化を体験できる活動 • 堤防でのヒメボタルの観察会や生息環境保全活動による環境学習	• オギやヨシのクラフト工作などの自然体験 • ホンシュウカヤネズミの巣探し等の観察	• 大井井堰上流の湛水域に飛来する鳥類の行動や生育環境を季節ごとに観察 • クズのクラフト工作やイタドリの採取などの自然体験 • 採取したイタドリを農業公園に持ち帰って、草ジャム作りなどを体験できる活動
農業公園からのアクセス、利便性	• 農業公園から徒歩約3分 • 農業公園には駐車場が整備されており、遠方からの来場者やファミリー層が利用しやすい	• 農業公園から徒歩約10分	• 農業公園から徒歩約15分	• 農業公園から徒歩約5分 • 農業公園には駐車場が整備されており、遠方からの来場者やファミリー層が利用しやすい
公共交通機関でのアクセス	• バス停「田能西」から徒歩約5分	• バス停「田能口」から徒歩約5分	• JR猪名寺駅からアクセスできる • バス停「田能西」から徒歩約5分	• JR猪名寺駅からアクセスできる • バス停「田能西」から徒歩約5分